

令和 4 年度大津市歴史博物館活動報告



大津市歴史博物館

目 次

〔議題1〕令和4年度の事業結果について

◇大津市歴史博物館の基本的運営方針

〔基本的運営方針1〕地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

-
- ・活動目標(1) 資料の調査収集・研究活動の推進
 - ・活動目標(2) 調査情報のデータ化と収蔵資料の充実
 - ・活動目標(3) 地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進

【1-1-1】博物館資料の収蔵状況（収集資料件数・新収蔵資料）	…	1
【1-1-2】未指定文化財調査事業の進捗状況	…	7
【1-1-3】資料調査の実施状況	…	10
【1-1-4】大津市歴史博物館調査報告書の発行	…	11

〔基本的運営方針2〕あらゆる世代・地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

-
- ・活動目標(1) 常設展示の充実
 - ・活動目標(2) 企画展示の充実
 - ・活動目標(3) 子ども・若者に対する学習支援の推進
 - ・活動目標(4) 幅広い世代に向けた積極的な情報発信

【1-2-1】常設展示観覧者数	…	12
【1-2-2】企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」の結果	…	13
【1-2-3】企画展「仏像をなおす」の結果	…	17
【1-2-4】壬申の乱1350年記念企画展「大友皇子と壬申の乱」の結果	…	20
【1-2-5】れきはく講座等の実施状況	…	25
【1-2-6】子ども向けイベントの結果	…	27
【1-2-7】大津絵を活用した歴史博物館活性化事業	…	29
【1-2-8】市内小中学校等による博物館利用状況	…	33
【1-2-9】広報・情報発信の状況	…	34

〔基本的運営方針3〕大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

-
- ・活動目標(1) 大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携
 - ・活動目標(2) 歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う

【1-3-1】講師・調査派遣等の状況	…	36
【1-3-2】収蔵資料の貸出し状況・特別利用の状況	…	37
【1-3-3】貸しギャラリーの利用状況	…	38
【1-3-4】施設の活用（キッチンカー・ロビー展示等）	…	39

〔参考1〕大津市歴史博物館の概要について

… 41

〔参考2〕大津市歴史博物館の基本的運営方針と活動目標について

… 43

〔参考2〕条例・規則

… 49

〔議題1〕 令和4年度の事業結果について

【1-1-1】 博物館資料の収蔵状況

◇収集資料件数

	購 入	受 贈	受 託	合 計
絵 画	165件 (+11件)	71件	253件 (+33件)	489件 (+44件)
彫 刻	1件	1件	34件 (+4件)	36件 (+4件)
工 芸	40件	38件	46件 (+1件)	124件 (+1件)
書 跡	28件	21件	42件 (+1件)	91件 (+1件)
古 文 書	24件 (+1件)	27件	67件 (+1件)	118件 (+2件)
考 古	0件	5件	12件	17件
歴 史	37件 (+1件)	218件 (+1件)	85件 (+2件)	340件 (+4件)
民 俗	0件	22件	9件	31件
合 計	295件 (+13件)	403件 (+1件)	548件 (+42件)	1,246件 (+56件)

(令和5年3月末現在) (※減少は寄託品の返却、寄託品の受贈等による)

◇新収蔵資料 (令和4年度第1回收集資料)

令和4年7月21日答申

購入資料

	種別	名称	員数
1	絵画	大津絵 役行者	1 幅
2	絵画	大津絵 鍾馗	1 幅
3	絵画	大津絵 瓢箪鯰	1 幅
4	絵画	浮世又平名画奇特 歌川国芳画	竪大判2枚続
5	絵画	浮世又平名絵の誉 歌川小芳盛画	竪大判2枚続
6	絵画	近江八景図 比良暮雪 樹下石上画	1 枚
7	絵画	近江八景図 三井晩鐘 樹下石上画	1 枚
8	絵画	近江八景図 瀬田夕照 樹下石上画	1 枚
9	歴史資料	首註陵墓一遇抄	1 冊

受贈資料

種別	名称	員数
I 歴史資料	西村誠夫氏写真アルバム 附：滋賀銀行創立30周年 今昔シリーズ	一括

<購入 入>

購入1 絵画 大津絵 役行者 江戸時代 1幅

大津絵において初めて確認された画題。役行者は修験道の開祖に位置づけられている伝説の行者。本山派修験道の総本山聖護院は、三井寺の僧侶が開祖である。したがって、三井寺にも役行者像が祀られている。即ち、この大津絵の画題はご当地ものである。その希少性と、ご当地ゆかりの画題という点で、当館に相応しい作品といえる。

購入2 絵画 大津絵 鍾馗 江戸時代 1幅

18世紀前期の作品。同時期には、大規模な疱瘡の流行が何度も襲来した。大津絵の鍾馗や為朝は、その時期に出現した画題である。本作は、その中でも早い作例としてみなせる点で貴重である。疫病退散のニーズに応えた大津絵が存在したことがわかる作例である。

購入3 絵画 大津絵 瓢箪鯰 江戸時代 1幅

半紙2枚継ぎの大津絵鍾馗。大津絵十種に選ばれている画題であるが、瓢箪鯰は、雷公と並んで遺存例の少ない画題のひとつである（江戸後期に登場した矢の根はさらに希少である）。そのような実情において、本作は17世紀末に遡ることが確実視される最初期例である。

購入4 絵画 浮世又平名画奇特 歌川国芳画 嘉永6年（1853）江戸時代 竪大判2枚続

近松門左衛門の『傾城反魂香』を改作した『名筆傾城鑑』における、大津絵の精が活躍する場面を描いたもの。当時の記録では、本作は嘉永6年7月18日に版行され、評判を呼んで8月まで大いに売れた。しかし、鷹匠の羽織の袖に「かん」の文字があり、「疳公方」と揶揄された將軍家定の風刺画であると噂され、版元は販売停止、版木・手持ち品没収、草紙掛名主は交代となったいわくつきの作品。

購入5 絵画 浮世又平名絵の誉 歌川小芳盛画 竪大判2枚続

『傾城反魂香』を題材にしつつ、当時流行した大津絵節の様を描いた大津絵十種の作品。作者は歌川芳盛の弟子、歌川小芳盛（生没年不詳）。画中の各キャラクターのセリフには、大津絵節的な調子が散見される。幕末の大津絵節流行に伴い大津絵十種が定番化したことを示す好例。

購入6 絵画 近江八景図 比良暮雪 樹下石上画 江戸時代 1枚

喜多川歌麿の弟子、樹下石上による近江八景。樹下氏は画姓。俗姓は梶原氏で、鍛冶橋屋敷に住む山形藩士。活動の主体はもっぱら戯作者であり、寛政元年から文化6年にかけての発表が確認できる。本作は18世紀中期まで京の公家サロンで制作された大和絵近江八景画卷の体裁で描いており、画面上部余白には公家流の書風で、近衛信尹の近江八景詠歌が添えられる。

購入7 絵画 近江八景図 三井晩鐘 樹下石上画 江戸時代 1枚

購入6と同シリーズの三井晩鐘。

購入8 絵画 近江八景図 瀬田夕照 樹下石上画 江戸時代 1枚

購入6・7と同シリーズの瀬田夕照。本シリーズは、このたび購入の比良・三井・勢多のほかは、草津市が所蔵している堅田・唐崎・栗津が知られるのみ。矢橋と石山は未確認。

購入9 歴史資料 首註陵墓一遇抄 江戸時代 1冊

京町奉行与力・儒者であった平塚飄斎(1792~1875)が、各山陵の被葬者(天皇)を検討してまとめ、嘉永7年(1854)に発行、明治元年(1868)に再版された。大津市内にある弘文天皇陵にも言及しており、幕末・明治期における弘文天皇陵の選定にも関する貴重な情報を有する。

<受 贈>

受贈1 歴史資料 西村誠夫氏写真アルバム

附：滋賀銀行創立30周年 今昔シリーズ 昭和時代 一括

昭和10年代の1冊と、昭和27~29年頃の1冊の計2冊の写真アルバム。学生生活の様子や旅先の写真と共に大津市内の風景が多く記録されている。附の今昔シリーズは、滋賀銀行による利用者への配布物と思われる。木曽街道・東海道宿場・近江八景が、昭和38年当時の風景と比較されている。



購入1 大津絵 役行者
江戸時代 1幅



購入2 大津絵 鍾馗
江戸時代 1幅



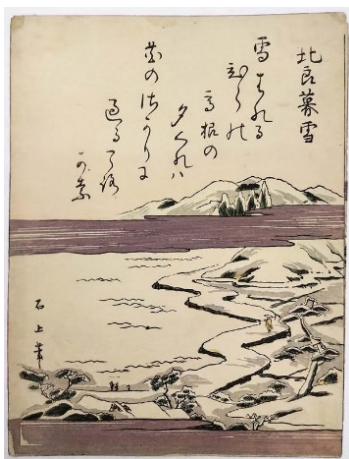
購入3 大津絵 瓢箪鯨
江戸時代 1幅



購入4 浮世又平名画奇特 歌川国芳画
江戸時代 縦大判2枚続



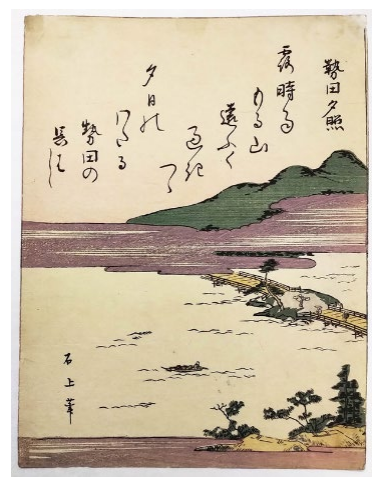
購入5 浮世又平名絵の誉 歌川小芳盛画
江戸時代 縦大判2枚続



購入6 近江八景図 比良暮雪
樹下石上画 江戸時代 1枚



購入7 近江八景図 三井晚鐘
樹下石上画 江戸時代 1枚



購入8 近江八景図 勢田夕照
樹下石上画 江戸時代 1枚



購入9 歴史資料
首註陵墓一隅抄
明治時代 1冊



受贈1 歴史資料
西村誠夫氏写真アルバム
昭和時代 1冊



受贈1附：滋賀銀行創立30周年
今昔シリーズ 一括

◇新収蔵資料（令和4年度第2回収集資料）

令和5年2月17日答申

購入資料

	種別	名称	員数
1	絵画	近江八景之内 粟津晴嵐 三代歌川豊国画	1枚
2	絵画	近江八景図 石山秋月 勝川春山画	1枚
3	絵画	有卦絵 船橋次郎左エ門・藤娘・福岡貢 (文久元年八月五日酉の刻) 歌川芳幾画	1枚
4	古文書	一庭啓二日誌（第三号）	1冊

<購入>

購入1 絵画 近江八景之内 粟津晴嵐 三代歌川豊国画 安政2年（1855） 江戸時代 1枚

江戸後期、最も人気の高かった三代歌川豊国が手掛けた近江八景シリーズ。役者絵・美人画が得意なだけあって、当時流行していた美人画見立ての近江八景図である。良家の娘が強風にあおられ、顔を袖で覆う。そのしぐさを粟津晴嵐になぞらえた作品。当館は比良と矢橋を収蔵済み。

購入2 絵画 近江八景図 石山秋月 勝川春山画 江戸時代 1枚

1800年前後に描かれた、円窓内に描かれた近江八景図。石山寺本堂における源氏之間の扱いが、独立した離れの部屋として描かれている。源氏物語執筆エピソードの影響が、強調された源氏之間の扱いに現れていて興味深い。春山は勝川春章もしくは春英の門人。

購入3 絵画 有卦絵 船橋次郎左エ門・藤娘・福岡貢

(文久元年八月五日酉の刻) 歌川芳幾画 江戸時代 1枚

文久元年（1861）辛酉、8月5日酉の刻（陰陽五行における陽の木性の対極にあたる陰の金性の年月日と時刻）をもって、木性の人（辛酉の対極：甲丙戌の寅年生まれ）が、7年の間、吉事が続く「有卦」（吉年）に入るため、その祝いの需要に対して描かれた「有卦絵」。福に繋がるとの縁起を担いで「ふ」の字がイニシャルのモチーフが描かれる。当時の歌舞伎人気演目から「ふ」で始まる主人公が選ばれ、その中央に堂々と歌舞伎舞踊の藤娘が中央に描かれる。

購入4 古文書 一庭啓二日誌（第三号） 明治時代 1冊

大津百艘船仲間で船屋を継いだ一庭は、琵琶湖初の蒸気船「一番丸」建造に尽力した。本資料は、一庭が船長職を辞した後、京都岡崎の對龍山荘に住み込みで勤務している時期の、勤務日誌ともいえるもので、出来事や山荘の来訪者を詳しく記している。今回の日誌は「第三号 日誌」であるが、当館には一号と四号をすでに収蔵しており、空白期間を埋める日誌となる。



購入1 近江八景之内 粟津晴嵐
三代歌川豊国画 江戸時代 1枚



購入2 近江八景図 石山秋月
勝川春山画 江戸時代 1枚



購入3 有卦絵 船橋次郎左工門・藤娘・福岡貢
(文久元年八月五日酉の刻) 歌川芳幾画
江戸時代 1枚



購入4 一庭啓二日誌(第三号)
明治時代 1冊

【1-1-2】未指定文化財調査事業の進捗状況

本市には、世界遺産の比叡山延暦寺をはじめ神社仏閣が点在し、国宝の絵画や彫刻などの美術工芸品が数多く所在している。さらには、大津宮に代表される遺跡群、山王祭や大津祭などの祭礼、坂本の町並みなど、大津の成り立ち、信仰、生業と深く結びついた多種多様な歴史文化遺産が、大切に受け継がれてきた。現在、国・県・市から指定を受けた文化財は 671 件あるが、市内には把握できていない未指定の文化財が多く残されている。令和元年に策定した「大津市歴史文化基本構想」では、歴史文化の保存に向けた基本方針のなかで、市民や市民団体、専門家、関係機関、行政等の協働による歴史文化遺産の調査を推進することが挙げられた。博物館ではこれまで展覧会や地元の要望等にあわせてこうした調査を行ってきたが、生活様式の変化や後継者不足、管理体制の問題などから、近年存続の危機に瀕している歴史文化遺産が多くなっていることをふまえ、今後は、より計画的な調査研究に取り組み、歴史文化遺産を所有者や地域とのつながり、また、専門家や関係機関、行政などとの協働を取り入れながら、「歴史文化の価値の共有化」や「連携による保存・活用」を図り、埋もれた未指定文化財が、後世により良い形で受け継がれるように取り組んでいく予定である。

令和 4 年度は、大津の食文化に関する歴史の調査や市内の寺社への文化財調査、大津町を描いた古絵図のデータ化、市民参加による古文書・歴史資料データベースの充実、古写真の整理公開といった事業などを行った。

◇研究テーマ

【大津の食文化資料調査プロジェクト】

大津市内の食文化や産業に関連する資料の総合調査。大津市内の食に関する企業等に保存されている歴史資料（古文書・近代以降のパンフレットや関連資料、制作道具等）を総合的に調査し、本市の食文化の一端を明らかにする。まずは、大津市史等で資料の所在が確認できている、和菓子と酒造に関する調査から始める。

令和 4 年度は、立命館大学食マネジメント学部の鎌谷かおる研究室などとの調査体制を整えた。和菓子については、立命館大学グラスルーツ・イノベーション・プログラム（GRIP）に採択されたことにともない、市内の和菓子店や菓子に関する行事調査などを行い、成果報告として立命館大学びわこ・くさつキャンパス（12 月 1 日～16 日）および、歴史博物館 1 階ロビー（1 月 6 日～22 日）で堅田に伝わる菓子木型とともに展示した（詳細は 1-2-3 を参照）。今後は、和菓子に関する継続的な調査とともに、酒造や他の食文化に関する調査へも範囲を広げていきたい。

【市内寺社未指定文化財調査】

大津市は、京都市や奈良市に次いで全国で 3 番目に指定文化財の件数が多く、このうち 9 割以上が市内の寺社が保有している。市内には、約 450 件の寺院と約 600 件の神社が所在しているが、いまだ未調査の社寺が多くあり、文化財的価値がある宝物が眠っていることが予想される。歴史博物館では、文化財所有者による保存や防犯等に関する相談も近年多くなっていることから、彫刻、絵画、工芸品、聖教など各分野による未指定文化財の総合的調査を計画的に行っていく。

本年度（本事業開始の6月から3月上旬まで）は、石山寺と浄土真宗、天台真盛宗、天台宗寺院を中心にして、下記の通り36か所、58回の調査を行った。

訪問場所	浄土真宗	石山寺	天台真盛宗	天台宗
回数	16か所(17回)	15回	8か所	5か所(6回)
訪問場所	延暦寺	園城寺	神社	真言宗
回数	4回	4回	3か所	1か所

調査では、平安時代（10世紀）の地藏菩薩立像をはじめとして、今まで知られていなかった平安、鎌倉、南北朝時代の仏像や、中世に遡る仏画、その他文化財的価値のある宝物を多く確認。そのうち、天台真盛宗の寺宝については、ミニ企画「大津の天台真盛宗寺院の寺宝」（11月1日～12月4日）で紹介を行った。次年度は浄土宗寺院を対象に加える予定。そして、ミニ企画展「大津の文化財調査中！」（6月9日～7月2日）で速報的に展示を行う。また、年に2冊の『未指定文化財調査報告書』の刊行を開始し、成果を公開していく予定である。

【大津町絵図プロジェクト】

江戸時代～明治時代の大津町（現在の中心市街地）を描く絵図「大津町絵図」は、全国の関係機関に収蔵されている。これは、かつて大津町に蔵屋敷・蔵元を設置した大名・旗本・寺社ら領主が、都市空間把握のために作成したと考えられるもので、藩政史料などのアーカイブや城下町図集などに多く残されている。本調査研究では、全国に所在する大津町絵図の調査とデジタルデータの収集を通じ、①江戸時代～明治時代の大津町の都市景観の把握のための資料として「大津町絵図データベース」を作成し（情報蓄積）、②許諾を得たものを順次当館HP古地図データベースにおいて、大津町の都市空間の変遷検討のための基礎データとして広く公開する（すでに各機関で公開されているものはリンクなど）。そして、③時宜に応じて、大津町絵図を紹介する展覧会を行う。

令和4年度は、神戸市立博物館所蔵（南波コレクション）、滋賀県立琵琶湖博物館蔵、当館蔵（新規を含む）の高精細写真撮影を実施し、新たに合わせて12点の大津町絵図のデータを収集することができた。

【古文書・歴史資料データベース充実事業】

令和元年に策定された「大津市歴史文化基本構想」では、文化財の保存・活用の仕組みづくりとして、調査研究体制の整備や市民の興味関心を高める機会の提供が方針として掲げられた。本事業は、古文書・歴史資料について、市民参加を得て史料集を発刊、あわせてHPでの公表を行う。令和3年度（2冊）に引き続き、令和4年度は、①重要文化財・大津百艘船関係資料のうち万留帳、②膳所藩士羽太家の古記録2冊を発刊した（詳細は1-1-4を参照）。古文書目録についても順次整理を進めている。

【大津の古写真整理公開プロジェクト】

博物館が所蔵する古写真の整理・公開に関するもの。大津の古写真データベースに収蔵写真を逐次登録して公開するとともに、平成18年に寄贈された、市内の写真家・谷本勇氏の写真整理を、成安造形大との共同事業として、デジタル化作業を行なっている。

令和4年度は、『新修大津市史』編纂に関連して行った地域巡回講座に際して撮影された、昭和50年代後半の各学区の写真を中心に公開点数を増やし、約1,500点を新たに公開した（2月末現在公開数は2,667点）。令和5年度は、未だ公開できていない昭和50年代の写真公開を順次進めていく。また、谷本勇氏の写真については、4年度で35ミリのモノクロ写真のうち、撮影初期のデジタル化がほぼ完了したため、5年度はその整理作業を行う予定である。

大津市歴史博物館
大津の歴史データベース

大津の古写真

キーワード:

検索条件:

該当件数: 2667件中、1~20件目を表示

表示件数: 20件 40件 100件 表示切り替え: ☒ 大画像表示 ☐ 画像表示 ☐ テキスト表示

主題

町並み・風景	政治・経済
施設・建物	教育
交通・運輸	軍事・警察
スポーツ・娯楽	民俗・風俗
災害・治水	観光・文化財

撮影年代

明治時代	大正時代
昭和初期	昭和10年代
昭和20年代	昭和30年代
昭和40年代	昭和50年代
昭和60年代	平成時代
不明	

撮影場所

小松	木戸
和濃	小野
真野	蟹田
杉本	雄略
坂本	下坂本
唐崎	道賀
山中比叡平	長等
藤尾	達坂
中央	平野
柳所	富士見
晴嵐	石山
南郷	大石
田上	上田上
瀬田	大津市
坂津市	高島市
滋賀県	琵琶湖・河川
国外	

条件リセット

雄略温泉
雄略港
雄略温泉
雄略温泉 観光光り魚
雄略温泉 琴江橋
雄略 琴江橋 (昭和30年代)
雄略温泉 琴江橋
雄略温泉
雄略 琴江橋 (昭和30年代)
旧琵琶湖ホテル本館 (昭和30年代)
雄略地区航空写真
雄略城跡公園北側上空からの眺望 (昭和30年代中期)
満月寺浮御堂 (明治時代)
石山寺から瀬田川を望む (明治時代)
室戸台風による琵琶湖の被害 (昭和9年)
室戸台風による琵琶湖の被害 (昭和9年)
室戸台風による琵琶湖の被害 (昭和9年)
室戸台風による琵琶湖の被害 (昭和9年)

古写真データベース URL <https://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/db/index.html>

※PCでの閲覧を想定したレイアウトです。

【1-1-3】資料調査の実施状況（令和4年度）

本館では、継続的な資料調査の他に、他機関・専門家等との合同による資料調査を行っている（継続も含む）。

（1）科学研究費補助事業、大学・研究機関への協力・共同調査

- ・基盤研究A「3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究」（課題番号 18H03571
代表者 藤岡穰〔大阪大学〕平成30年～令和4年度）
上記科研の研究協力者として、大津市内に所在する岩間山正法寺などの寺院に伝来する仏像の調査研究を実施。
- ・基盤研究B「越境する教義問答－東アジア仏教における国際的な相互交流－」（課題番号 20H01186：代表者大谷由香〔龍谷大学〕令和2年～7年）
上記科研の研究協力者として、大津市内に所在する聖衆来迎寺や法明院、西教寺に伝来する聖教の調査研究を実施。
- ・基盤研究C「園城寺所蔵中世天台関係聖教の調査による天台談義書ネットワークの解明」（課題番号 22K00299：代表者渡辺麻里子〔大正大学〕令和4年～令和8年）
- ・若手研究「船道郷土文書を基軸とした近江国堅田地域史料の再構築と通時代的研究」（課題番号 20K13188：代表者 高橋大樹〔佛教大学〕令和2年～令和5年）
館蔵居初家文書をはじめ、堅田に関わる文書・記録の悉皆調査を実施。
- ・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所プロジェクト「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」（代表者：吉田丈人）
洪水・土砂災害・高潮などの自然災害への生態系がもつ多様な機能を活用する防災減災の手法（Eco-DRR）による調査・研究。比良山麓地域（八屋戸・南小松）の地域史料と調査・整理の実施。
- ・立命館大学グラスルーツ・イノベーションプログラム（GRIP）「『菓都大津』再興プロジェクト」（代表者：鎌谷かおる）
滋賀県大津市における菓子文化への再評価と定着を目指すプロジェクト。菓子文化の理解、継承、担い手育成のため、菓子店への聞き取りや資料調査、祭礼行事調査、文化継承作業、栄養的評価等を行う。

（2）その他の調査

- ・歴史博物館れきはく講座受講者で、古文書読解を目的とする有志で結成された研究会と、館蔵文書・関係文書の整理・解読を進めている。（平成25年～）

【1-1-4】大津市歴史博物館調査報告書の発行

本館では、館蔵資料・市内文化財の調査について、その成果をまとめた報告書の発行を令和3年度から行っている。令和元年10月に策定された「大津市歴史文化基本構想」では、文化財の保存・活用のための仕組みづくりとして、調査研究体制の整備や市民の興味関心を高める機会の提供が方針として掲げられている。本事業は市民参加による調査・研究の取り組みに資するものと考え、その成果物の発行は、市民参加による研究活動の成果であるとともに、大津の歴史研究の基礎資料として活用できる。

令和4年度は、市民（大津古文書輪読会・大津古文書研究会の2グループ）との共同で、古文書を解読した史料集（2冊）を発行した。本報告書は、少部数の印刷物を県内図書館・研究機関等に配布し、史料集全文を本館ホームページで公開する。

〔令和4年度発行〕

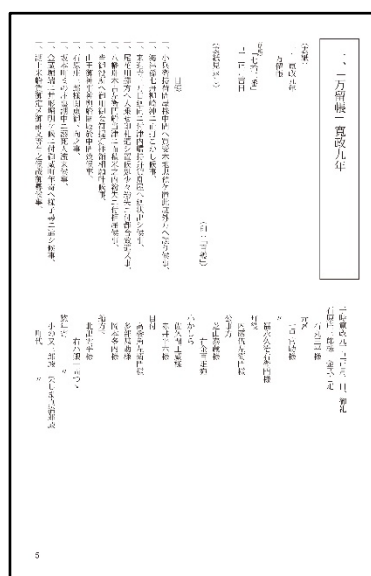
（1）『大津市歴史博物館調査報告書3 大津百艘船万留帳Ⅰ』

- 重要文化財「大津百艘船関係資料」のうち「万留帳」の寛政9年（1797）～寛政12年（1800）の4年分の史料集140頁。
- 江戸時代に琵琶湖水運の中心的役割を担った大津百艘船が書き継いだ留帳で、大津町の様子や琵琶湖水運の実態に迫る記録。

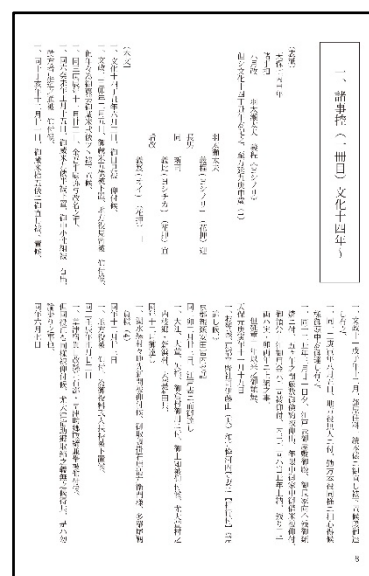
（2）『大津市歴史博物館調査報告書4 膳所藩士羽太家「諸事控」』

- 文化14年（1817）～明治39年（1906）までの全2冊（完結）の史料集105頁
- 膳所藩士羽太家が編年体でまとめた記録で、藩政や城下町の動静を読み解くことのできる史料。

※令和5年度は、報告書5「大津百艘船万留帳3」等を発行予定。



大津百艘船万留帳2



膳所藩士羽太家「諸事控」

【1-2-1】 常設展示観覧者数（令和4年4月～令和5年2月）

（単位：人）

	個人				団体				市内障がい者等	歴博カード会員	減免・招待	計	前年 同月
	一般	市内65歳以上	高大	小中	一般	市内65歳以上	高大	小中					
4月	771	11	32	36	339	173	3	1	41	174	862	2,443	1,364
5月	347	41	25	24	539	10	45	0	14	41	73	1,159	1,728
6月	260	69	23	10	87	23	101	1	30	66	139	809	1,521
7月	402	16	29	62	221	48	36	9	15	153	122	1,113	1,282
8月	960	9	91	137	482	121	43	2	58	218	340	2,461	1,971
9月	532	24	43	31	245	54	5	1	48	121	157	1,261	420
10月	806	15	74	27	518	191	21	0	38	311	272	2,273	2,172
11月	801	14	45	43	856	182	25	43	50	199	881	3,139	2,640
12月	227	13	16	8	99	4	1	2	11	33	29	443	470
1月	290	34	30	50	94	14	0	0	12	42	69	635	465
2月	291	42	14	55	118	20	0	0	25	77	95	737	454
3月	458	18	30	35	273	144	2	0	24	385	440	1,809	1,532
計	6,145	306	452	518	3,871	984	282	59	366	1,820	3,479	18,282	16,019

対前年比 2,263

【参考】 常設展示観覧料

個人 一般330円 高校生・大学生240円 小学生・中学生160円

団体 一般260円 高校生・大学生190円 小学生・中学生130円

※団体は15人以上。

※大津市内在住の65歳以上の人は、小中学生料金と同額。

※大津市内在住の障がい者、介護保険の要介護者・要支援者及びその介護者1名は無料。

※歴博カード会員（一般2,000円 高大1,500円 小中1,000円）は記名本人のみ、登録から1年間有効で、常設展示ほか本館主催の企画展を何度でも観覧可能。

※ミニ企画展は、常設展示観覧料で観覧可能。

※企画展観覧券を購入した者は、同時に常設展示も観覧可能。

【1-2-2】山元春生誕 150 年記念企画展「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」の結果

- 1、会 期 令和 4 年 3 月 12 日(土)～4 月 17 日(日) [開館日数 37 日間]
- 2、会 場 大津市歴史博物館 企画展示室 A
- 3、主 催 大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館、京都新聞
- 4、後 援 朝日新聞大津総局、e-radio、NHK 大津放送局、共同通信社大津支局、
KBS 京都、産経新聞社、時事通信社大津支局、(株)ZTV 滋賀放送局、中日新聞社、
日本経済新聞社大津支局、BBC びわ湖放送、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局
- 5、観覧料 一般 600 円(480 円) 高大生 300 円(240 円) 小中生 200 円(160 円)
- 6、展示作品 132 件
- 7、入館者数 3,133 人(うち有料観覧者 1,935 人 無料観覧者 1,179 人)
◇有料観覧者数 内訳
個人 一般：896 人 高大生：45 人 小中生：35 人
団体割引一般：450 人 高大生：5 人 小中生：2 人
市内(65 歳以上)割引：292 人 歴博カード会員：210 人

8、関連講座

[現地見学会]

現地見学会「蘆花浅水荘と膳所焼美術館探訪」 講師：横谷・木津(本館学芸員)

3 月 16 日：計 34 名、3 月 23 日：計 36 名、4 月 6 日：計 34 名

《1 日 2 回(午前午後)開催》

[スライドトーク]

「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」 講師：横谷賢一郎(本館学芸員)

3 月 16 日：38 名、4 月 2 日：37 名、4 月 13 日：44 名

[れきはく講座]

4 月 9 日「盆梅展「梅仙窟」にみる膳所の近代」

講師：木津勝(本館学芸員) 参加者数：52 名

4 月 14 日「陽炎園・復興膳所焼とその時代ー古典復興と近代デザイン運動のなかで」

講師：鈎真一氏(滋賀県立陶芸の森陶芸館学芸員) 参加者数：51 名

9、刊行物 『蘆花浅水荘と山元春拳画塾』図録(A4 変形版 48 頁 価格 900 円)

会期中の販売実績：393 冊(一般 362 冊、会員 31 冊)

10. 広報・報道

【新聞・雑誌掲載】

産経新聞：3 月 12 日朝刊滋賀版、 京都新聞：3 月 15 日朝刊京滋版・滋賀版・電子版

朝日新聞：3 月 22 日夕刊全国版、 中日新聞：4 月 4 日朝刊滋賀版・電子版

毎日新聞：4 月 5 日朝刊滋賀版・3 月 20 日電子版、 膳所市民ニュース第 146 号 2022.3

「Duet」第 141 号 特集「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」サンライズ出版

「湖国と文化」第 179 号「生誕 150 年山元春拳特集」(公財)びわ湖芸術文化財団

【テレビ報道】 びわ湖放送：3 月 27 日ニュース、ZTV

【ネット記事】 地方紙と共同通信のよんななニュース：3 月 15 日

11. 展覧会の成果と問題点

【成果】

- 山元春拳生誕 150 年を記念して開催した本展では、画壇の大御所春拳の陰に隠れてしまった弟子たちの作品を紹介するとともに、山元画塾の活動にスポットをあてた。同時に春拳の郷里の地、膳所に造営した春拳の別邸「蘆花浅水荘」での活動にスポットをあてた。蘆花浅水荘が単に風光を愛でるための別邸ではなく、膳所の文人や職人たちを支援する拠点でもあり、仕事の成果を活用する場として、本阿弥光悦の鷹峯村にも似た構想でもあった点にも触れ、そうした春拳の理念による支援によって、膳所で花開いた復興膳所の茶陶（岩崎健三作・春拳絵付け）や春拳が見立てた珍竹道具類などをまとまった形で展覧した。以上の切り口は、これまでの県立近代美術館でも紹介されてこなかったものであり、本展で初めて知ったという来館者が多かった。
- 会期中は、蘆花浅水荘や膳所焼美術館などと連携を行なった。蘆花浅水荘では、期間中の金土日曜日と祝日は事前予約なしで見学可能となり、また、膳所焼美術館では、山元春拳との関係を示す展示が行われた。そのため、展覧会の観覧前後に両施設の来訪者が一定数増加した。
- 当館主催の現地見学会を3日間計6回行なったが、いずれも希望者数が定員を超えた。当日は、蘆花浅水荘や膳所焼美術館の見学以外に、希望者に膳所歴史資料室のメンバーによるまちあるきが行われ、本多神社境内の膳所藩資料館の見学がコースに加わった。

【反省点と今後の課題】

- 大津市観光協会との連携で会期中の4日間、夜間開館を行なったが、時間中の来館者はふるわなかった。
- 絵画作品、早苗会の活動、山元春拳の狂歌、春拳関与の茶道具、数寄者世界・蘆花浅水荘など、一度に紹介する構成としてしまったので、消化しきれないままの展示解説や解説パネルとなってしまう。今後は、ミニ企画展などで、本展の遺漏をフォローしていきたい。

13. アンケート結果（抄） 全体回答者数 402 人

〔膳所および大津市の方々の反応〕

- ・ 滋賀、大津にこのようなすぐれた日本画家がおり、浅水荘が残っている事を知った。今後も大切に、時にPRして欲しい。（大津市・60代）
- ・ 春拳の画業と人となり 趣味の多様さと早苗会誕生の作品を近年ではめずらしく興味深く拝見しました。（大津市・80代）
- ・ 大津・膳所にゆかりの画家がおられた事にほこりを持っています。ゆかりの町がもっと知ってもらえるようになってほしい。（大津市・70代）
- ・ 膳所という住まいから大変近いところに このような作品があることをこの企画展で知りました。以前より日本画には興味がありましたが、明治・大正の時代に幅広い画風と作家と作品があったことに驚きました。個人的には柴田晩葉氏の「夜這い猫」が気に入りました。（大津市・50代）
- ・ 文化あふれる膳所の町。広報もっともっとしていく必要ありですね。（大津市・70代）

〔展示作品に対する感想〕

- ・ 門下生の作品が数多くみられたのが値打ちでした。（京都府・50代）
- ・ 絵を見るのは好きですが、日本画は（のっぺらぼうのような印象で、）縁遠く感じていました。構図、色彩とも大変見応えがありました。（山元画塾は）ひとつの芸術運動でもあったのだと思います。どうも有難うございました。（草津市・60代）

- ・ 全ていい作品で、絵をかく者としては、とても勉強になった。展示内容も大容量でとても満足した。様々な種類の絵があったため、あきることなく楽しめた。(滋賀県・高校生)
- ・ 学生時代にワンダーフォーゲル部に入っていたので早苗会の山岳部の写生登山には大変興味をもって拝見しました。特に疋田春湖画伯の「雲煙の大山」は山脈の形状がリアルで印象的でした。日本画以外に陶芸(膳所焼)や竹工芸の作品も多く残っていることに驚きました。(大津市・60代)
- ・ 写生帖がよかったです。画家の写生力のすごさを感じました。(大津市・40代)

[連携に関する感想]

- ・ 画家の師弟関係や活動ぶりが沢山の作例とともに知ることができてとても楽しかったです。現地見学会は外れてしまいましたが、別に機会に行ってみたいと思いました。地域と美術の世界をつなぐ好企画と思います。(愛知県・40代)
- ・ 膳所焼とのコラボも楽しかった。我家にある扇面の俳句と鮎の絵でとても興味が増し、お茶会でよく浅水荘にも行かせて戴き身近に拝見出来た事もよかったです。(大津市・80代)
- ・ 明治以降の京・関西の画家、画塾集りの展示は、兎に角面白い。地域性やオリジナリティーに富んでいて、視点が変わるので楽しく見る事ができます。「山元春挙」という人物を知らなかったのですがHPを見て、「好み」と感じられたので来ました。来て良かったとつくづく思います。(京都府・50代)

[解説文や図の充実に関する意見・要望]

- ・ 作者の一覧(主な早苗会員)が生誕から没年まで棒年表でのパネルであれば春挙画伯からの経路がよりわかり易かったと思う。(大津市・60代)
- ・ 画讀を、わかりやすく、説明文に入れて欲しい。(兵庫県・70代)
- ・ 展示作品については、本当にすばらしくて、来た甲斐がありました。解説文は、殆ど作者の事で、作品についての話がありません。せめて画題について一言解説があれば良かったのに、と思います。(大阪府・50代)

[企画展名称と展示内容とのギャップ]

- ・ 春挙の作品が多くあると思った。画塾生の作品色々あり、でも大変良かった。大津市内 70代
- ・ もう少し山元春挙の作品があると思っていたので残念だった。しかし、趣味人だったこと、画塾の方の作風もいろいろありおもしろかった。(名古屋市・40代)
- ・ 文字を大きくするか、ガラスに貼ってある方が読みやすい。春挙先生本人の作品が少ないのが残念。(スペース的にムリか)(千葉県・50代)

[展示会場に対する意見]

- ・ 陶芸の展示が少し低いと思う。絵付部分がしゃがまないと見づらいと思いました。車椅子やお年寄りのことを思われてのことと考じますが、もう 20~30 cm高くても良いと思います。鏡を使用しても良いのではないのでしょうか。人にやさしい博物館であれ！(大津市・60代)
- ・ すいません、ちょっと暗くて絵がよく見えませんでした。(京都府・50代)
- ・ 大きな声でおしゃべりしている人がいたり、ケイタイを何度も鳴らしていたり見守りの方がおられないのが気になった。(滋賀県・60代)
- ・ 部分的に照しゃして頂ければと思います。少し暗かったように思いました。(湖南省・80代)
- ・ 展示室内でしゃべりつづける人がいて、大変残念でした。絵についてならまだしも、展示室内のベンチでずっと世間話。(大阪府・50代)



企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」における展示作品例



現地見学会：蘆花浅水荘園での解説風景



現地見学会：膳所焼美術館での解説風景

【1-2-3】伝教大師最澄没後 1200 年企画展「仏像をなおす」の結果

- 1、会 期 令和4年7月23日(土)～9月4日(日) [開館日数 37 日間]
- 2、会 場 大津市歴史博物館 企画展示室 B
- 3、主 催 大津市、大津市歴史博物館
- 4、特別協力 比叡山延暦寺・日吉大社
- 5、協 力 楽浪文化財修理所
- 6、後 援 朝日新聞大津総局、e-radio、NHK 大津放送局、共同通信社大津支局、京都新聞、KBS 京都、産経新聞社、時事通信社大津支局、(株)ZTV 滋賀放送局、中日新聞社、日本経済新聞社大津支局、BBC びわ湖放送、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局
- 7、観覧料 一般 500 円(400 円) 高大生 300 円(240 円) 小中生 200 円(160 円)
- 8、展示作品 19 件(41 点)
- 9、入館者数 3,250 人(うち有料観覧者 2,836 人 無料観覧者 414 人)
◇有料観覧者数 内訳
個人 一般：1340 人 高大生：119 人 小中生：107 人
団体割引一般：684 人 高大生：48 人 小中生：2 人
市内(65 歳以上)割引：243 人 歴博カード会員：293 人

10、関連講座

7 月 29 日(金)「戦国期の日吉社の復興」

講師：嵯峨井 建 氏(京都國學院講師) 参加者数：67 人

8 月 6 日(土)「七条仏師の仏像ひな型」

講師：丹村 祥子 氏(龍谷大学世界仏教文化研究センター客員研究員) 参加者数：64 人

9 月 4 日(日)「近世彫刻史における山門復興造像について」

講師：大崎 瑠生 氏(美術史家) 参加者数：77 人

[講座参加者計：208 人]

11、刊行物 『仏像をなおす』図録(A4 変形版 30 頁オールカラー 価格 800 円)

会期中の販売実績：384 冊(一般 335 冊、会員 49 冊)

12、展覧会の成果と問題点

【成果】

- タイトルの「なおす」とは、何らかの理由で損なわれたものを「もとの姿にもどす」という意味である。現在我々が目にできる仏像のほとんどは、造立後、いずれかの段階で「なおす」が行われている。その「なおされ」ることがなければ、残されていなかった可能性が高い。本展は長い歴史の中で壊れた仏像を修復する、失われた仏像を同じ形で復興する、魂を引き継ぐ、などの例を紹介した展示である。この内容での展覧会は今までに無かったため、好評を得た。
- 比叡山延暦寺では、伝教大師最澄開創 1200 年を記念して根本中堂の改修が行われ、同時に堂内の十二神将像の修復も順次行われている。今回は延暦寺と修理工房である楽浪文化財修理所の配慮によって、修復途中の像を像内の墨書銘がみえるかたちで展示を行った。修復途中の仏像の像内を展示公開することは、信仰上、修復工程上なかなか許可が得られるものではない。ゆえに極めて珍しい展示として注目を浴びた。

- 日吉大社の西本宮の大床に安置の獅子・狛犬は、木造としては日本最大級の作例で、桃山時代の迫力ある像を初公開し、好評を得た。
- 延暦寺の十二神将像については、関西テレビがニュースで大きく取り上げ、また、NHK 天津放送局が比叡山の根本中堂の修復を取り上げた特番を放映したため多くの反響があった（さらに2023年3月3日には、「おうみ発スペシャル 大改修！比叡山延暦寺」が放映された）。
- クイズを解きながら展示室をまわるワークシートを実施。質問に答えながら理解が深まると好評で、参加者には記念品として仏像缶バッジ（4種類）を配布し、これも人気であった。
- 展示室入口で、仏像になりきって写真を撮ることができる「なりきり仏（フォトケ）スポット」を実施。多くの来館者が挑戦し、SNSで発信された方もみうけられた。

【問題点】

- 企画展示室Bのみの小展示であったが、作品数が少なく残念だったという声が多く寄せられた。
- 他館でよく行われている修理の成果を紹介する展示では、修理風景や材料、道具などを展示し、作業風景のビデオなどを流していることが多い。趣旨が違ふ本展はそれを行っていないが、それらを期待して来館された方々からは、不満の声があった。

13、アンケート結果（抄） 全体回答者数 324 人

◎大津市歴史博物館への来館回数

①初めて：314人 ②2～4回：140人 ③5回以上：107人 ④10回以上：77人

◎居住地

①大津市内：175人 ②滋賀県内(大津市外)：91人 ③京都府：118人 ④その他：257人

◎年齢 ①～10代：26人 ②20代：44人 ③30代：51人 ④40代：70人 ⑤50代：167人

⑥60代：140人 ⑦70代：112人 ⑧80代：11人 ⑨90歳以上：1人

◎どなたと来られましたか。

①一人：303人 ②家族と：244人 ③友人・知人と：74人 ④団体：13人 ⑤その他：5人

◎自由記入欄より感想・意見・要望の一部を内容ごとに分類して抄録（一部中略のある他は原文のまま）

- ・比叡山焼きうちの時比叡山にあった仏像や書物などすべて焼き払われたと思っていましたが、持ち逃げて下さった人が他の寺や院に安置したり新しく建立した寺等に保存されていて戻ったりしたことを知りました。（大津市・70代）
- ・文化財が守り伝えられることの大切さと、その要因としての布施者の存在、技術の伝承がよくわかるすぐれた企画展だとおもいました。（高島市・70代）
- ・仏像を作成されることもすごいことですが、なおすこと、それをのちの時代へつなげようとする思いと努力、技術におどろきました。（茨城県・40代）
- ・いつも企画展に来るたびに学芸員さんが見る人のことを考えてわかりやすい展示にしていると思います。仏像などに対する「愛」を感じます。これからもすてきな企画を楽しみにしています。（三重県・40代）
- ・「なおす」をテーマに仏像の修復部分や実際の修復状況が展示されていました。こういった展示はあまり見たことがなかったので面白かったです。（京都府・大学生）
- ・長い歴史の中で、破損した文化財を愛情を持って直されているのが良くわかりました。大切なことだと思います。（大津市・60代）
- ・今までにない角度からアプローチした企画展だと思い、訪ねたが、とても興味深いいい経験となった。特に発見されたままの状態で開催されている写真と展示が良かった。（湖南市・10代）

- ・修理のプロセスやその結果に注目して、はっとしました。今まで「後補あり、がっかり」と感じていましたが、解説にあったように守り伝えてきたプロセスが残った証拠ですね。勉強になりました。(東京都・40代)
- ・「なおす」という視点で仏像の修理歴や散逸した宝物の回収や再興などの伝記にふれられておもしろかったです。(東京都・30代)
- ・ていねいな説明、特に解体された展示は初めて見、中書きも見ることができ貴重な機会だと思いました。作品点数は少なくともいつも解説等詳しくとてもありがたいです。これからの企画展も楽しみにしています。(京都府・50代)
- ・博物館近くにあるお寺の仏像修復ではありますが歴史の重みを感じさせるものばかりで関東から来た身としてはぜいたくな内容だと思いました。(東京都・50代)
- ・仏像等が今こうして見られることは決してあたり前のことではなくて様々な人の尽力によるものであると思った。私たちも守っていかなければいけないなと思った。(東京都・20代)
- ・企画展のコンセプトがこれまでの他博物館と異なり面白い着眼点でした。根本中堂の十二神将を間近に見れた事もよかった。もう少し展示数が多ければよかったです。(神奈川県・60代)
- ・本来目にする機会の少ない仏像の裏、後ろ姿や解体の仏様を拝むことができ、興味深かったです。長年仏像を残さねば守らねばという強い想いのおかげで現在多くの文化財を見ることができていると強く思いました。これは我々も続けていかななくてはならないと思いました。(京都府・60代)



展示風景



ワークシート（参加者には記念缶バッジをプレゼント）



なりきり仏スポット

【1-2-4】壬申の乱 1350 年記念企画展「大友皇子と壬申の乱」の結果

- 1、会 期 令和4年(2022)10月8日(土)～11月23日(水・祝) [開館日数 39 日間]
- 2、会 場 大津市歴史博物館 企画展示室 A
- 3、主 催 大津市歴史博物館
- 4、後 援 朝日新聞大津総局、e-radio、NHK 大津放送局、共同通信社大津支局、京都新聞、KBS 京都、産経新聞社、時事通信社大津支局、(株)ZTV 滋賀放送局、中日新聞社、日本経済新聞社大津支局、BBC びわ湖放送、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局
- 5、観覧料 一般 800 円 (640 円)、高大生 400 円 (320 円)、小中生 200 円 (160 円)
※()内は各種割引適用時の料金。
- 6、展示作品 135 件
うち国宝 1 件、重要文化財 1 件 (5 冊)、県指定 2 件 (13 冊)、市指定 4 件
- 7、入館者数 3,972 人 (うち有料観覧者 3,308 人 無料観覧者 664 人)
◇有料内訳 個人 一般：1,277 人 高大生：99 人 小中生：52 人
割引 一般：1,451 人 高大生：45 人 小中生：9 人
市内 (65 歳以上) 割引：342 人 歴博カード会員：375 人

8、関連講座

[記念講演会]

10 月 10 日 (月・祝) 14 時～15 時 30 分 会場：大津市役所別館 1 階大会議室

タイトル：壬申の乱とその時代

講師：早川万年氏 (元岐阜大学教授) 参加者数：160 人

[れきはく講座]

10 月 15 日(土) 14 時 30 分～16 時 会場：大津市歴史博物館講堂

タイトル：あのね、壬申の乱ってね……1350 年の伝言ゲームと宮滝遺跡の調査前史ー

講師：中東洋行氏 (吉野歴史資料館学芸職員) 参加者数：84 人

11 月 5 日(土) 14 時 30 分～16 時 会場：大津市歴史博物館講堂

タイトル：壬申の乱の『山前』を考える

講師：松浦俊和氏 (元大津市歴史博物館長) 参加者数：78 人

[現地見学会]

10 月 27 日 (木) 13 時～16 時 30 分頃 行程：市埋蔵文化財調査センター～京阪近江神宮前駅

タイトル：近江大津宮関連史跡をめぐる 参加者数：16 人

11 月 10 日 (木) 13 時～16 時頃 行程：瀬田唐橋南東側広場～京阪粟津駅

タイトル：壬申の乱伝承地をめぐる 参加者数：23 人

[スライドトーク] 企画展内容の概説

10 月 28 日 (金) 14 時～(40 分程度) 参加者数：87 人

11 月 12 日 (土) 14 時～(40 分程度) 参加者数：57 人

※現地見学会及びスライドトーク講師はいずれも福庭万里子 (本館学芸員)

9、刊行物 図録『大友皇子と壬申の乱』 (A4 判変型、96 頁オールカラー、販売価格 1,500 円)

製作数：1,500 冊 (寄贈用 500 冊を含む)

会期中の販売実績：630 冊 (一般：556 冊、会員：74 冊)

10、展覧会の成果と課題

【内容面】

- 日本古代史上最大の内乱といわれる壬申の乱から 1350 年という節目に合わせ、大津ならではの視点として大友皇子を中心に壬申の乱を取り上げた。展示の前半は、壬申の乱の経過を日本書紀や関連地域の出土品などで展示し、後半は、乱後から明治時代にいたるまでの大友皇子即位説の展開や弘文天皇（大友皇子）陵決定の過程に関する歴史資料を多数展示する構成とした。
- 前半部分は、奈良県、三重県、岐阜県など壬申の乱ゆかりの地の出土資料も借用して展示したが、関連資料が限られるため、主要な出品資料としては既往の壬申の乱展を追従するものとなった。しかし、大津の特色という点では、国宝・崇福寺塔心礎納置品をはじめ、大津宮周辺に位置する白鳳寺院の資料を多数展示することができた。また、乱の経過など複雑な内容を理解しやすいよう、乱の展開の解説と、遺跡・遺物の解説でパネルのデザインや配置を変えるなどの工夫をした。
- 後半部分は、大友皇子が明治時代に弘文と追諡され天皇位に引き上げられるまでの経緯、また弘文天皇陵決定に際して大津市域を含め各地で複数の候補が存在したことなどを、明治時代の公文書（重要文化財・公文録、滋賀県行政文書）や絵図などの歴史資料によって展示した。また、千葉県の弘文天皇陵治定運動に関する史料群を借用し展示することができた。各資料自体は既出のものであるが、大友皇子即位説・弘文天皇陵という視点から展示にまとめたことは画期的で、アンケートでも特に後半の展示への評価が高かった。
- 展示内容に関して、小学生高学年程度に合わせた内容でクイズ形式のワークシートを作成したところ大人にも好評であった。また、展示品の蓮華文瓦の文様を消しゴムハンコとし、展示の記念になるコーナーを設けた。

【広報面】

- 企画展チラシを A3 判中折とし、壬申の乱の戦乱展開図や大津市内の関連遺跡・伝承地 MAP も記載した。同時期に、奈良県、岐阜県、三重県などでも壬申の乱 1350 年の展示・イベント等が開催されており、相互にチラシを配布して周知した。アンケートでは三重県、岐阜県などからの来場者が一定数いることがわかり、地元の資料が展示されているというきっかけで来訪したという人も多かった。

【集客・販売面】

- 来場者の評価は一定高いものであったが、テーマが一般的によく知られているものでありながら集客数は 4000 人弱にとどまった。チラシ内容に工夫をこらしたが、配布するチラシ数や、市内・近隣地域へのポスター掲示場所については限られており、本テーマに興味を持つ層へなかなか企画展開催情報をうまく届けられていないという面がある。

【反省点と今後の課題】

- 出品資料・展示解説文章ともに情報量が多い展示であったので、展示のわかりやすさ、見やすさが求められた。アンケートでは、解説文について簡易なものと詳細なものを分けるという案や、各立地の理解のために地図の表示が不十分という指摘、内容理解のためにイラストや映像、音声を交えた解説を求める声があった。
- 展示では、壬申の乱と大友皇子にまつわる伝承地も紹介したが、博物館が伝承の内容を認定するような受け止め方をされないよう、扱いが難しい面があった。伝承の真偽ということではなく、その伝承が残った時代背景の歴史という点の整理は今後も必要である。また、古代史の展示を求める声が一定みられたので、常設展示の該当コーナーの再構成やミニ企画展などで今後も継続して補完していきたい。

11、アンケート結果（抄） 全体回答者数 757 人

◎来館者の居住地

- ①大津市内：282 人 ②滋賀県内(大津市外)：98 人 ③京都府：87 人 ④その他：290 人
(その他のうち上位5都道府県：大阪95人、愛知27人、兵庫23人、東京・奈良22人)

◎来館者の年齢

- ①～10代：24 人 ②20代：34 人 ③30代：29 人 ④40代：93 人 ⑤50代：180 人
⑥60代：182 人 ⑦70代：169 人 ⑧80代：35 人 ⑨90代以上：7 人

◎大津市歴史博物館（企画展観覧）への来館回数

- ①初めて：341 人 ②2～4回：219 人 ③5回以上：101 人 ④10回以上：91 人

◎来館の際の同行者

- ①単独：390 人 ②家族：259 人 ③友人知人：69 人 ④団体：33 人 ⑤その他：5 人

◎本企画展開催を知った広報媒体

- ①当館 HP：156 人 ②当館 SNS：38 人 ③ポスター類：317 人 ④広報おおつ：105 人
⑤新聞：34 人 ⑥テレビ・ラジオ：29 人 ⑦情報誌：8 人 ⑧他 HP：45 人 ⑨その他：140 人

◎展示内容の満足度

[展示内容]

- ①大変満足：296 人 ②満足：367 人 ③普通：75 人 ④不満：12 人 ⑤大変不満：0 人

[説明文の内容や分かりやすさ]

- ①大変満足：291 人 ②満足：361 人 ③普通：81 人 ④不満：7 人 ⑤大変不満：0 人

[コメント（不満）：文章が長い 1人]

[文字の大きさや見やすさ]

- ①大変満足：265 人 ②満足：333 人 ③普通：124 人 ④不満：16 人 ⑤大変不満：4 人

[コメント（普通）：暗かった 3人 （不満）：文字が小さい 3人]

◎自由記入欄より感想・意見・要望の一部を内容ごとに分類して抄録（一部中略・抜粋あり）

[展示テーマに関する感想]

- ・大友皇子、大津市に存在する天皇陵にスポットをあてる内容、企画は大変珍しく、良いと思います。(大津市・50代)／壬申の乱関連では大体大友皇子はアウェーなので、大友皇子メインというのはとても嬉しい。(広島県・40代)／ピックアップされることの少ない人物なので、企画展で情報がまとめられていてよかった。伝承地めぐりをしてみたいと思いました。(茨城県・30代)／負けた側からみるというのは少ないので、おもしろかったです。(大阪府・40代)／奈良のほうで壬申の乱の関連展示や場所を見るのとはまた違った、近江側からの展示で興味深く、楽しませていただきました。(京都府・20代)

[展示内容・構成に関する感想]

- ・タイトルから古代の展示かと思って来ましたが、近世以降、また対象地域も広く、非常にスケールの大きい展示だと感じました。大友皇子・壬申の乱を軸にした地域史がみごとに描かれていたと思います。(京都府・40代)／近世の資料が多様で興味深かった。壬申の乱の伝説化と地元の人々の受容の歴史がわかりやすく展示されていました。(大津市・60代)／天智天皇崩御から明治政府の対応に至るまで、時代の推移とともに「乱」の意義付けが変化していく様子を知り、大変興味深く拝見しました。(愛知県・50代)／新しい視点（弘文天皇陵の場所など）で構成されている点がおもしろかったです。(名古屋市・50代)／近江朝変遷と大海人の軍の進路等が表示してあってリアルに感じた。(奈良県・70代)

[展示資料に関する感想]

- ・戦いの進行に沿って戦場に関係ある遺物が展示してあったのがよかった。(広島県・20代)／大友皇子や大津市内に縁のある古代寺院の出土遺物が多数展示されており、その量に圧倒されました。(京都府・20代)／大友皇子即位についての説、記述あるなしの文献がずらっと並んでいるところが良かったです。(大津市・50代)／弘文天皇陵選定の経過の諸資料と展示が大変充実していて良かったです。(大阪市・50代)／考古学の面からだけでなく、伝承を含む紹介が非常に興味深かったです。大友皇子が後世どのようにとらえられていたのかが見えました。(奈良県・40代)

[ワークシート、消しゴムハンコに関する感想]

- ・ワークシートもすごく分かり易くて良かったです。(大津市・中学生)／ワークシートを解答しながら展示物を見るのはなかなか面白いです。じっくりと内容が把握できるし、勉強にもなります。(京都府・40代)／かわらハンコに感動しました。本当に工夫がいっぱいで良かったです。(三重県・50代)

[展示内容についての意見・要望]

- ・歴史的資料が無いのかもしれませんが、大友皇子と銘打って展示をするなら、大友皇子本人の人となりや生前の動向にも触れてほしい。(愛知県・60代)／高島市でも壬申の乱が舞台となった地があり、関りがあると自負していましたが、三尾城が表示されているだけで、伝えられているできごとなどの紹介もなく少し残念でした。(高島市・40代)／天智天皇の時代をまたとりあげてもらえたらうれしいです。(岐阜県・60代)／ちょっと書籍が多かった。仏画・仏像(彫刻)をもっとみたい。(大阪府・40代)

[解説文や図の充実に関する意見・要望]

- ・もうすこしふりがなをふってほしい。(草津市・10歳)／わかりにくかった。イラストがあれば良かった。(大阪市・小学生)／簡単な解説と詳細な解説を分けてされてはどうでしょうか。(守山市・60代)／一般の方目線では難しい。史料の読み下しや、解説、要約がないと、理解できない。(京都府・20代)
- ・入場してすぐの展示場所に簡単でいいので地図があればもっと良かった。他府県から来た者で、位置関係を把握しづらかった。(大阪市・50代)／それぞれの説明文に簡略で良いので地図を付記して欲しかった。(大阪市・60代)

[音声・映像解説に関する意見・要望]

- ・音声での解説があればよいと思った。2～30分ものの映像が見られる設備があるとよい。(大津市・80代)／文字によるだけで無く、絵やアニメのような説明もあったら良いと思う。(大津市・60代)／もう少し文章だけでなく、戦いのようすをアニメにするとか、大友皇子と臣下の関係や生き残った皇子たちのその後とか、いろいろ専門家でなくても楽しめる工夫がほしい。(東京都・60代)

[展示順路に関する意見・要望]

- ・順路が非常にわかりにくくもう少し工夫してほしい。パネルの色をかえるとか。(京都府・60代)

[広報に関する意見・要望]

- ・可能であればHPに本展示の資料の写真をもう少し掲載を。(奈良県・20代)／もっともっとアピール、コマーシャルすべき。多くの人に観てもらって欲しい。(大津市・60代)



① ロビー展示（古代の瀬田橋模型）



② 企画展示室内の展示風景



③ 現地見学会のようす



④ ワークシート（展示室入り口横に設置）

第一章 壬申の乱
大津宮周辺の古代寺院

展示 No.9-1 「崇福寺塔心礎出土品」を見てみよう！

Q.1 崇福寺の塔心礎から宝物が見つかりました！
どんな宝物でしょうか？

① 刺 ② 金印 ③ 舍利容器 ④ 勾玉

答え

わたしが
皇帝して
崇福寺は建てられた
と伝えられているよ
大友天皇

展示 No.8-1 「蓮華文方形軒瓦」を見てみよう！

Q.2 南近賀町唐寺から出土した「蓮華文方形軒瓦」は
かつて様式とある生き物に似ていると考えられた
ことから別名「瓦」と呼ばれています。
どんな生き物にみえるかな？自由にかいてみましょう！

図 8-1 蓮華文方形軒瓦

⑤ ワークシート紙面（展示内容のクイズ形式）

第二章 大友皇子と弘文天皇
「弘文天皇」の誕生

展示 No.5-4 「公文録」を見てみよう！

Q.3 大友皇子（近江朝廷側）が大海人皇子軍に大敗
して壬申の乱の勝敗を決定づけた戦いの場所は
どこでしょうか？

① 玉倉部邑 ② 若殿 ③ 烏帽子山 ④ 瀬田橋

ヒント！
今も遺蹟にある
有名な観光名所です

答え

Q.4 大友皇子は明治政府によって歴代天皇に加えられ
「弘文天皇」という名前を贈られています。別の
名前の候補もありました。
①～④のうち候補だったものは、どれでしょうか？

① 光孝天皇 ② 明武天皇 ③ 仲恭天皇 ④ 淳仁天皇

答え

大友皇子

※ハンコは6種類で、自由に押せるようロビーに設置。また、展覧会名入りのポストカード台紙を作成し、ワークシート参加者への景品とした。



⑥ 消しゴムハンコと特製ポストカード

【1-2-5】 れきはく講座の実施状況（令和4年4月～令和5年3月）

	開催日	曜日	回数	シリーズ名など	タイトル	講 師	応募者数	当選者	参加者
1	4月2日	土	814	企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」関連講座	「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」スライドトーク	横谷賢一郎（本館学芸員）	30	30	37
2	4月6日	水	815	企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」関連イベント	【現地見学会】 蘆花浅水荘と膳所焼美術館探訪	現地講師・本館学芸員	122	41	34
3	4月9日	土	816	企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」関連講座	盆梅展「梅仙窟」にみる膳所の近代	木津勝（本館副館長）	59	59	52
4	4月13日	水	817	企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」関連講座	「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」スライドトーク	横谷賢一郎（本館学芸員）	56	56	44
5	4月14日	木	818	企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」関連講座	陽炎園・復興膳所焼とその時代－古典復興と近代デザイン運動のなかで	鈎真一（滋賀県立陶芸の森陶芸館学芸員）	70	70	51
6	5月29日	日	－	ミニ企画展「大津絵れきはく蔵出し展2022」関連ワークショップ	ステンシルキットで大津絵を描いてみよう！	本館受付係	19	10	7
7	7月9日	土	819	ミニ企画展「大津市内の淀藩領の村々」関連講座	淀藩士渡辺善右衛門がみた朝鮮通信使	木土博成（京都大学文学研究科助教）	121	90	65
8	7月16日	土	820	ミニ企画展「大津市内の淀藩領の村々」関連講座	淀藩稲葉家と大津	五十嵐正也（本館学芸員）	114	90	79
9	7月29日	金	821	企画展「仏像をなおす」関連講座	戦国期の日吉社の復興	嵯峨井建（京都國學院講師）	113	90	67
10	8月6日	土	822	企画展「仏像をなおす」関連講座	七条仏師の仏像ひな型	丹村祥子（龍谷大学世界仏教文化センター客員研究員）	128	90	64
11	8月7日	日	823		新史料『乙夜之書物』から「本能寺の変」を捉えなおす～光秀拳兵から佐馬助の湖水渡り・坂本落城まで～	萩原大輔（富山市郷土博物館主査学芸員）	165	90	70
12	8月28日	日	824	大河ドラマ関連講座「鎌倉時代の天津」	承久の乱と近江国・勢多	長村祥知（富山大学学術研究部人文科学系講師・大河ドラマ時代考証担当）	219	100	79
13	9月3日	土	825	大河ドラマ関連講座「鎌倉時代の天津」	鎌倉幕府の成立と近江国	勅使河原拓也（京都大学非常勤講師等）	200	100	85
14	9月4日	日	826	企画展「仏像をなおす」関連講座	近世彫刻史における山門復興造像について	大崎瑠生（美術史家）	126	100	77
15	10月10日	月	827	企画展「大友皇子と壬申の乱」記念講演会	壬申の乱とその時代	早川万年（元岐阜大学教授）	338	180	160
16	10月15日	土	828	企画展「大友皇子と壬申の乱」関連講座	あのね、壬申の乱ってね… －1350年の伝言ゲームと宮滝遺跡の調査前史－	中東洋行（吉野歴史資料館学芸員）	170	102	84
17	10月22日	土	829	ミニ企画展「近江神宮造営史－建築技師大洞藤三郎の設計図面から－」関連講座	資料からみる近江神宮造営	赤津将之（本館学芸員）	100	100	74
18	10月27日	木	830	企画展「大友皇子と壬申の乱」関連イベント	【現地見学会】 近江大津宮関連遺跡をめぐる	福庭万里子（本館学芸員）	121	26	16
19	10月28日	金	831		企画展「大友皇子と壬申の乱」スライドトーク	福庭万里子（本館学芸員）	140	100	87
20	11月5日	土	832	企画展「大友皇子と壬申の乱」関連講座	壬申の乱と「山前」を考える	松浦俊和（元大津市歴史博物館学芸員）	223	100	78
21	11月10日	木	833	企画展「大友皇子と壬申の乱」関連イベント	【現地見学会】 壬申の乱伝承地をめぐる	福庭万里子（本館学芸員）	143	25	23
22	11月12日	土	834		企画展「大友皇子と壬申の乱」スライドトーク	福庭万里子（本館学芸員）	111	111	57
23	11月13日	日	835	大津絵ワークショップ	マイ大津絵カレンダーをつくろう！	日本大津絵文化協会、横谷賢一郎（本館学芸員）	50	14	8
24	12月13日	土	836	佛教大学歴史学部×大津歴博コラボ企画	ワークショップ「オリジナル花押を作ろう」（午前）	佛教大学歴史学部学生、貝英幸（佛教大学教授）、高橋大樹（本館学芸員）	54	25	23
25	12月13日	土	837	佛教大学歴史学部×大津歴博コラボ企画	ワークショップ「オリジナル花押を作ろう」（午後）	佛教大学歴史学部学生、貝英幸（佛教大学教授）、高橋大樹（本館学芸員）	52	25	21
26	12月17日	土	－		ステンシルキットで大津絵を描いてみよう！	本館受付係	18	7	5
27	2月2日	木	838	日本フェノロサ学会共同開催講座	ボストンからの書簡－三井寺法明院資料からみるフェノロサ・ビゲロー－	井上瞳（日本フェノロサ学会、愛知学院大学准教授）	86	86	65
28	2月11日	土・祝	839	日本フェノロサ学会共同開催講座	最後の奥絵師、狩野友信－幕末と明治をつなぐフランス贈呈絵画－	山田久美子（日本フェノロサ学会、立教大学名誉教授）	92	92	68
29	3月1日	水	840	叡山学院共同開催 特別公演	第11回 叡山学院 聲明公演	叡山学院修学生	90	30	21

30	3月9日	木	841		十二支の東伝—彫刻作例を中心に—	赤津將之（本館学芸員）	122	109	82
31	3月11日	土	842		仏像着衣入門（インド・中国篇）	柘植健生（本館学芸員）	118	100	67
32	3月15日	水	843		現地見学会 三井寺の涅槃会	鯨井清隆（本館学芸員）	79	30	22
33	3月18日	土	844	企画展「湖都大津の災害史」関連講座	土砂留め奉行—淀川水系の砂防を担う—	水本邦彦（京都府立大学・長浜バイオ大学名誉教授）	102	102	66
34	3月19日	日	845	企画展「湖都大津の災害史」関連古文書入門講座	江戸時代の大津の災害史料を読む①	高橋大樹（本館学芸員）	102	102	78
35	3月23日	木	846	企画展「湖都大津の災害史」関連イベント	【現地見学会】 百間堤とその山麓地域をめぐる	高橋大樹（本館学芸員）	88	40	雨天中止
36	3月25日	土	847	企画展「湖都大津の災害史」関連講座	寛文二年近江・若狭地震をめぐる災害対応と復興	東幸代（滋賀県立大学人間文化学部教授）	118	99	74
37	3月26日	日	848	企画展「湖都大津の災害史」関連古文書入門講座	江戸時代の大津の災害史料を読む②	高橋大樹（本館学芸員）	96	96	69
38	3月31日	金	849	大津絵ワークショップ	大津絵でオシャレなプチ掛軸づくり	ミヤマケイ（美術家）、横谷賢一郎（本館学芸員）	51	20	17
計							4,206	2,737	2,076

対前年度 +6回 対前年度参加者比 +981

〔参考〕2021年4月～2022年3月は32回
参加者は1,095人

【新型コロナウイルスの影響による開催状況の変更について】

- ◆2020年9月以降、下記の予防対策を講じたうえで、講座を再開した。
- ・会場（歴史博物館講堂）の座席について前後左右の間隔を確保するために、1回の定員を90名とした。2022年8月下旬以降は、従来通り定員を100名に戻した。
 - ・館内は空調設備により外気を取りこみ常時換気をしているが、さらに必要に応じて会場のドアや窓の開放等をおこない換気をおこなった。
 - ・受付および講師演台に、飛沫感染防止用のアクリルボードを設置した。
 - ・来場者へ次のように要望した。
 - ①ご来場の際には、必ずマスクをご着用ください。
 - ②事前にご自身の体調に十分ご留意いただき、体調がご不安な方はご来場をお控えください。また、以下に該当する場合は、ご来場をお断りいたします。
体調不良の諸症状がある方（37.5度以上の発熱、咳・咽頭痛、全身倦怠感、味覚・嗅覚障害、その他の体調不良）、来場者ご本人や身近な方に新型コロナウイルス感染症の疑いがある方、過去14日以内に、新型コロナウイルス陽性者との濃厚接触がある方。
 - ③当日、講座会場受付にて体温測定をおこない（非接触型の体温計使用）、37.5度以上の発熱がある方はご入場をお断りします。
 - ④手洗い、手指の消毒、咳エチケット、他の方との間隔の確保等、感染防止対策にご協力ください。
 - ⑤講座会場内（講堂）やロビーなどでは、お客様同士の間で一定の距離をとり、会話はできるだけお控えください。
 - ⑥厚生労働省が推奨する新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）や、滋賀県が実施する「もしサボ滋賀」もあわせてご活用ください。

【1-2-6】子ども向けイベントの結果

大津市歴史博物館・成安造形大学共同企画 夏休みおもちゃづくりワークショップ 2022

歴史博物館では、平成14年（2002年）から毎年、小学校の夏休み時期に合わせて、「夏休みおもちゃづくりワークショップ」を開催している。これは、成安造形大学の協力を得た連携事業で、美術領域を専門とする大学生とともに、歴史文化をテーマとした子ども向けワークショップをおこなうものである。大学生は大学のプログラム授業として参加し、ワークショップ内容の考案、準備、当日の指導などを担当する。これまでに約600人の学生が参加してきた。本事業は、市内の小学生が親子で博物館を訪れるきっかけのひとつとなっており、令和3年度までに6,300人以上（延べ人数）の子どもたちが参加した。

令和4年度は、令和3年度と同様に対面でのワークショップを行なった。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、1回あたりの参加者数を減らし、代わりに回数を増やして、総参加者数が維持できるようにした。令和元年度以前に行っていた、子どもたちが作った完成品の展示は行わなかった。

1. ワークショップ概要

期 間 令和3年8月6日（土）～8月10日（水）[4日間]

参加申込者 のべ 925人 （令和3年度 参加申込者のべ 359人）各回定員 20人

開催日	おもちゃ名	申込	参加者
8月6日（土）	am とどけろ！てんびんマン	19	19
	pm とどけろ！てんびんマン	16	8
	am しゅっこーワクワクびわ湖号！	65	18
	pm しゅっこーワクワクびわ湖号！	55	17
8月7日（日）	am はっけよい！大津絵すもうバトル	15	13
	pm はっけよい！大津絵すもうバトル	11	12
	am コロコロ☆お城迷路	119	17
	pm コロコロ☆お城迷路	101	18
8月9日（火）	am とどけろ！てんびんマン	32	17
	pm とどけろ！てんびんマン	25	19
	am はっけよい！大津絵すもうバトル	21	10
	pm はっけよい！大津絵すもうバトル	11	9
8月10日（水）	am しゅっこーワクワクびわ湖号！	109	15
	pm しゅっこーワクワクびわ湖号！	60	18
	am コロコロ☆お城迷路	160	15
	pm コロコロ☆お城迷路	106	19
合計		925	244

- ①とどけろ！てんびんマン（てんびんマンに変身してたくさん運ぼう！）
- ②しゅっこーワクワクびわ湖号！（自分だけのびわ湖号を作ろう！）
- ③はっけよい！大津絵すもうバトル（大津絵キャラたちがトントンずもうでバトル！）
- ④コロコロ☆お城迷路（自由に組み替えられる迷路を作ろう！）

3. 事業の概要と結果

- ・ 今年度は、大津にちなんだ歴史や文化をテーマにしたおもちゃ4種を学生たちが考案した。年度初めに、博物館から学生たちへ事業の概要と常設展示の趣旨についてレクチャーした上で、資料提供を行い、学生たちがそれぞれの専門分野を活かしながら模索したことから、バラエティ豊かなおもちゃを取り揃えることができた。
- ・ 実際に制作する前に、学生たちが子どもたちの前でおもちゃのテーマに沿った導入映像や紙芝居、人形劇を上演した。各班ともバラエティ豊かな内容であり、おもちゃづくりの導入として子どもたちの興味関心を引き、各テーマの趣旨を伝えることができていた。
- ・ 例年どおり、当館ホームページとツイッター、広報おおつへの掲載、大津市内の小学校全児童へのチラシ配布等で告知した。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策として、2か所（企画展示室A、トラックヤード）での同時進行であったため、学生数が不足することがあった。
- ・ おもちゃの種類によって、申込みが極端に偏る結果となったが、いずれのおもちゃも子どもたちに好評であった。
- ・ 8月10日の申込者が極端に多い結果となったが、これはお盆休みの初日にあたる家庭が多かったことが影響していると考えられる。
- ・ ワークショップ終了後に常設展示を観覧する親子連れが多く、常設展示への一定の集客効果があった。



左上：導入・説明部分

右上：制作部分

左下：制作したおもちゃで遊ぶ

【1-2-7】大津絵を活用した歴史博物館活性化事業

国内外に根強い人気を持つ大津絵は、地元を代表するキャラクターとして知名度が高く、市内外で常に多くの大津絵を鑑賞する場を求める声が多い。近年、博物館では、実際の描き方に近い方法で大津絵を描くワークショップの開催するほか、外部からも土産物等へ活用したいという相談を受けることも増えている。ついては、博物館の大津絵コレクションの認知度をさらに高め、「いつでも江戸時代の大津絵を鑑賞し、楽しめる施設」として定着させることを目指し、館内での展示や普及活動、外部との連携のほか、さらなるコレクションの充実に取り組んでいる。

1. 展示内容と収蔵品の充実

◆常設展示室内「大津絵コーナー」

2019年の展示コーナー改装後、常時10点の江戸期大津絵を入れ替えながら展示している。また、江戸期の大津絵落雁の菓子木型や近代以降の大津絵人形など関連資料も展示している。

ミニ企画展や企画展に合わせて展示替えを行っているが、今年度は企画展「仏像をなおす」にあわせて大津絵の神仏画の特集展示、および企画展「大友皇子と壬申の乱」にあわせて長刀弁慶や為朝などの大津絵の武者絵特集の展示を行なった。

◆ミニ企画展「柴田晩葉と近代日本画家の大津絵」

企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」のサテライト展示として開催した。春挙門人を中心に、近代日本画家によって描かれた、我流の大津絵をまとめて紹介した。

◆大津絵関連の新収蔵品

例年よりも多く収蔵品を収集できた（資料【1-1-1】参照）。中でも希少な画題である「役行者」や当館所蔵品に欠けていた大津絵十種の「瓢箪鯰」など、重要な江戸期大津絵が加わった。

また、歌川国芳の《浮世又平名画奇特》など、大津絵の展示にあたって欠かせない浮世絵作品も収蔵できた（同様に欠かせない浮世絵作品である歌川国芳の《流行逢都絵希代稀物》や歌川広重の《東海道五十三対 大津》の収蔵は、次年度以降の目標）。

本年度の収集の結果、令和5年3月時点における江戸期大津絵の館蔵品点数は30件となり、画家・浮世絵師による大津絵関連作品（大津絵人形等も含む）も17件に増加した。大津絵十種で未収蔵の「雷公」・「矢の根」をはじめ、今後も収蔵品を充実させ、活用を図りたい。

2. 大津絵ワークショップの開催

◆「ステンシルで大津絵を描いてみよう！」

本館受付係のスタッフによる企画。学芸員による常設展示の大津絵ギャラリートークに始まり、江戸時代の大津絵技法である合羽摺りをステンシルで模擬体験するワークショップを年3回開催した（後述）。来年度も同様の回数を予定している。

◆日本大津絵文化協会との提携

博物館企画展示室で行なわれた、同協会主催の「現代大津絵展」にあわせて、ワークショップを企画した。同協会会長の高橋松山氏によるレクチャーにより、参加者は半紙に肉筆で大津絵を描き、完成後に年間カレンダーの台紙に貼り付けて、オリジナルの大津絵カレンダーを制作した。

3. 大津絵アクリルキーホルダーの製作

本年度は、館蔵品の「鬼念仏」を用いたアクリルキーホルダー（単価 500 円）を製作した。堅調な売れ行き（8月から2月で53個）をみせているため、来年度は「猫と鼠」を用いて製作する予定である。

【成果と今後の展開】

◆成 果

ワークショップの開催は、5月、11月、12月、2月に計4日を開催した。参加者は、ステンシルが合計12組で33名、カレンダーが8名であった。コロナ禍による人数制限により、少ない参加者で行なったが、来年度以降は可能な範囲で、より多くの方々に参加いただけるようにしたい。

◆来年度の予定

木版画家手製の天津絵スタンプによる蔵書票づくり（5月）と団扇づくり（8月）。デザイナーによる天津絵ワッペンづくり（秋頃）。日本天津絵文化協会による天津絵カレンダーおよび高橋松山氏による歴代松山の歴史のレクチャー（11～12月）、天津絵の絵馬づくり（1月）などを予定している。年間を通じて、天津絵に関する様々なワークショップが行われている博物館を目指し、多彩な講師を招いてワークショップを開催する予定である。



大津絵カレンダーづくりの様子



大津絵アクリルキーホルダー

「ステンシルで大津絵を描いてみよう！」

1. 企画立案理由

大津の歴史と文化を発信する当館には年間多くの来館者があるが、その年齢層は高い。未来を担う子どもたちにもっと大津の魅力を伝えたいという思いから、2021年に受付係の職員が主体となって、大津絵の小学生向けワークショップを企画した。小学生を対象としているが、募集を家族単位にすることで、その保護者世代の来館促進にもつながれば、という狙いもある。

2022年（令和4年度）は回数を増やし、5月（2回）・12月・2月、合計4回を開催した。

※大津絵とは……江戸時代における大津の代表的な名物のひとつ。子どもから大人まで楽しめる庶民的な画風が特徴で、今も脈々と描き継がれている。

2. ワークショップ内容

【当日の流れ】

常設展示室の大津絵を学芸員の解説で観覧した後、体験学習室で大津絵ワークショップを実施。

【工夫した点：手法、画材】

大津絵の伝統技法を現代風にアレンジし、誰もが気軽に楽しめるよう工夫した。画題は一番人気の「鬼念仏」で、合羽摺をステンシルに変更。型紙は渋紙からクリアファイルに、刷毛塗りはスポンジ塗布に変え、小さな子どもでも失敗が少なく、早くきれいに仕上がる手法を確立した。絵の具はステンシル部分を速乾性のあるアクリル絵の具で、手描き部分を水彩絵の具で着色。また、紙は市販のPC用A4判伊勢和紙を使用した。

【新型コロナウイルス感染症対策】

募集は家族単位での申込みとし、当日は参加者同士が対面しない向きで作業テーブルを設置。体験学習室の換気と備品の消毒、マスク着用、手指消毒などを徹底して行った。

3. 実施内容

日 時：第1回 5月29日（日） 9時30分～11時30分と13時30分～15時30分

第2回 12月17日（土） 9時30分～11時30分

第3回 2月4日（土） 9時30分～11時30分

場 所：大津市歴史博物館（体験学習室・常設展示室）

対 象：小学生とその保護者（ステンシルキットは1家族につき2セット準備）

定 員：各回5組（応募多数の場合は抽選）

参加費：1家族1,000円（材料代、人数分の常設展示観覧料含む）

参加数：合計12組（大人17名、小学生16名、計33名）

日付	参加組数	大人	小学生	応募	当選	キャンセル
5月29日 午前	3	5	5	19	10	3
午後	4	6	7			
12月17日 午前	3	3	2	18	5	2
2月4日 午前	2	3	2	2	2	0
合計	12組	17名	16名	31組	17組	5組

4. 成果と今後の課題

制作スペースの都合上、募集を昨年同様1回5組とした。多くの方に参加してもらえるよう第1回は午前、午後の部を設けた。結果、昼を挟むため午後の準備時間に余裕が無く、第2回、第3回は午前の部のみに戻した。今年度は年間開催回数を3回まで増やすことが出来た。また、ホームページで制作キットデータの配布を開始した。来年度の実施計画も立案中で、今後は鬼念仏以外の大津絵にも取り組んでいく予定である。

5. 当日の様子と資料紹介



常設展示室での説明



ワークショップ会場



制作風景（ステンシル作業中）



制作風景（手描き作業中）



大津絵ワークショップ 配布資料



ワークショップ会場 説明パネル

【1-2-8】小中学校等による博物館利用状況（令和4年4月～令和5年2月）

【常設展示団体観覧】 ※市内小中学校の団体観覧は申請により常設展示観覧料を減免。

来館日時	学校名（学年）	児童・生徒数	備考
6月3日（金）	北大路中学校（2年生）	30	班ごとの課外活動
6月17日（金）	仰木の里小学校（6年生）	46	
11月1日（火）	打出中学校（1年生）	105	班ごとの課外活動
11月2日（水）	栗津中学校（1年生）	59	班ごとの課外活動
11月2日（水）	青山中学校（1年生）	34	班ごとの課外活動、体験学習対応
11月9日（水）	南郷中学校（1年生）	17	班ごとの課外活動
11月11日（金）	比叡平小学校（3年生）	26	昔のくらし道具の解説対応
聴講人数合計 325 人（児童・生徒数 317 人、引率 8 人）			

【小学校へ出張授業などの対応】

例年、市内小学校からの依頼に応じて学芸員が出向いて授業をおこなっている。6年生の総合学習、小学校3年生社会の「昔のくらし」や「市のうつりかわり」に関する内容が多い。また、体験学習用の教材として昔の道具の貸出もおこなった。依頼数については、コロナ禍以前の状況に戻りつつある。

実施日時	学校名（学年）	児童・生徒数	備考
7月5日（火）	晴嵐小学校（6年生）	166	総合学習で「晴嵐歴史探検」として晴嵐学区の歴史について。
9月29日（木）	平野小学校（3年生）	186	平野学区を中心とした市の移り変わり
1月24日（火）	晴嵐小学校（3年生）	146	昔のくらしや道具についての体験学習
1月24～27日	瀬田南小学校（3年生）	127	昔のくらし（体験学習用の資料貸出のみ）
1月13日（申請日）	和邇小学校（3年生）	----	市の移り変わり（古写真データ提供のみ）
2月7日（火）	青山小学校（3年生）	122	市の移り変わりと昔のくらしや道具についての体験学習
2月17日（金）	大石小学校（3年生）	28	昔のくらしや道具についての体験学習
聴講人数合計 775 人			

（参考）令和2年度：7校、令和3年度：3校（オンライン2校、道具貸出のみ1校）

【その他の学校対応】

大津赤十字看護専門学校（5/18来館、講義「大津町周辺の歴史文化を探る」）、滋賀県立大津商業高校（2/2～3来館、職場インタビュー対応）などがあった。

なお、大津市内の中学校2年生職場体験事業については、令和元年度まで例年数校程度を受け入れており、新規に要望があれば随時受け入れてきたが、令和2年度以降の新型コロナウイルスの影響により現在は事業自体が中止となっている。

【1-2-9】情報発信(広報・SNS)の状況

1. プレスリリース(広報課を通じた記者発表)

発表日	件名
令和4年 4月4日	大津絵 れきはく蔵出し展 2022「柴田晩葉と近代日本画家の大津絵」の開催
6月14日	常設展示室内に「大津城特集ミニ展示」コーナーを設置
6月16日	ミニ企画展「大津市内の淀藩領の村々」の開催
7月15日	企画展「仏像をなおす」の開催
9月1日	ミニ企画展「近江神宮造営史ー建築技師大洞藤三郎の設計図面からー」の開催
10月5日	企画展「大友皇子と壬申の乱」の開催
11月2日	ミニ企画展「大津の天台真盛宗の寺宝」の開催
令和5年 1月20日	ミニ企画展「大津の小学校150年」の開催
3月1日	企画展「湖都大津の災害史」の開催
3月7日	ミニ企画展「新収蔵品展」の開催

2. ホームページ・SNS等の公開状況

◆ホームページ更新について

[ホームページアドレス：<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>]

企画展、特別展示の詳細や主な展示作品については、各トピックについて news 頁を作成して情報を公開し、ホームページ更新のお知らせや学芸員視点での資料紹介について Twitter を活用している。また、貸しギャラリーやその他の開館情報については、ホームページ・Twitter 双方で告知するようにしている。

◆オリジナル壁紙の公開・配付

2021 年 1 月から当館ホームページで公開している。年単位でテーマを変えており、2021 年は大津絵、2022 年は歌川広重作品、2023 年は花押である。PC やタブレット、スマートフォン向けを用意している。また、壁紙にはカレンダーをつけ、利用者の利便性を向上させている。壁紙に用いられたモチーフへの理解を深めるため、壁紙のページに簡単な説明をつけている。

◆大津市歴史博物館公式 Twitter の更新状況

[アカウント名：otsu_rekihaku URL：[www.twitter.com/otsu_rekihaku](https://twitter.com/otsu_rekihaku)]

令和 5 年 3 月時点で総ツイート数 1,210、フォロワー数 2,427 (令和 4 年 3 月 14 日時点 1,845)

◆大津市歴史博物館公式 Instagram の更新状況

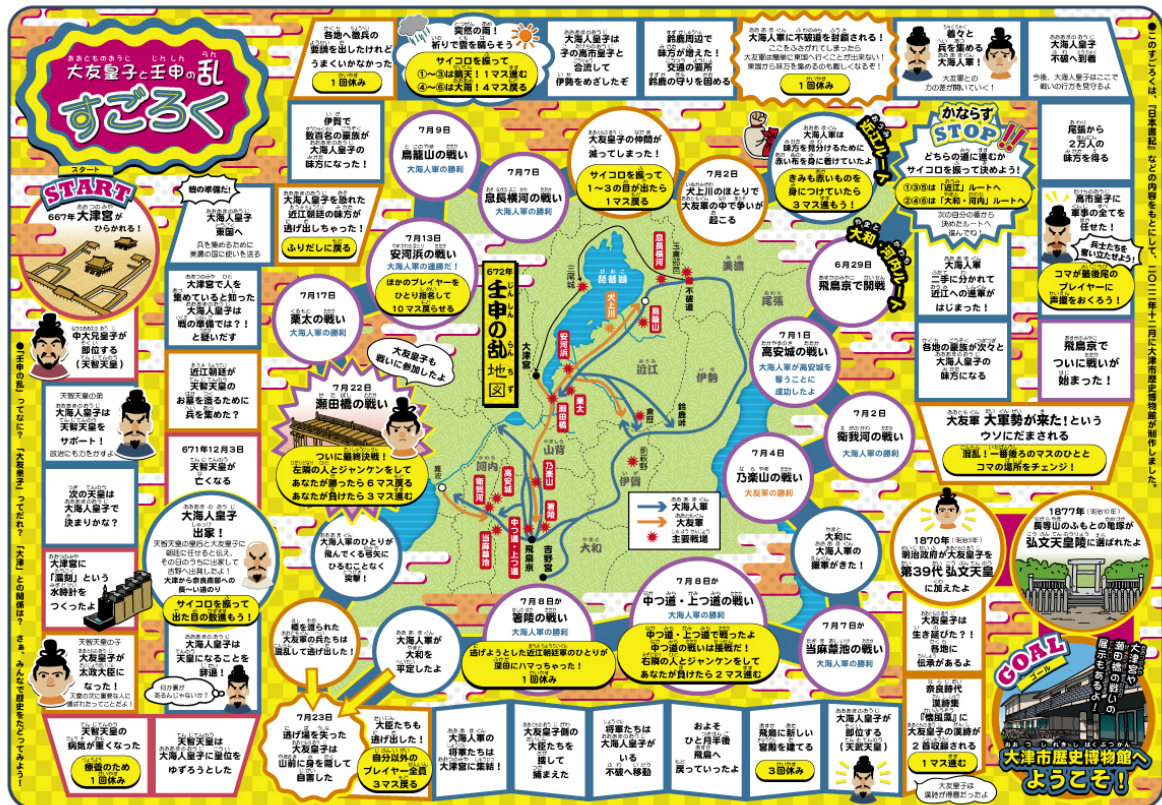
[アカウント名：otsu_rekihaku URL：www.instagram.com/otsu_rekihaku/]

運用方針 URL：www.city.otsu.lg.jp/soshiki/070/2451/g/46596.html

令和 5 年 3 月 14 日時点で総投稿数 227、フォロワー 247

◆「大友皇子と壬申の乱」すごろくの公開

壬申の乱 1350 年を記念して、当館職員が「大友皇子と壬申の乱」すごろくを制作した。遊びながら、大友皇子と壬申の乱のことが学べる内容で、家族や友人たちと遊んでもらうことを想定し、年末の 2022 年 12 月 28 日にホームページや Twitter、Instagram で公開した。公開直後から大反響を呼び、Twitter のリツイートは約 2,000 件、いいねは約 3,600 件に達した。また、毎日新聞の取材を受け、記事は 2 月 13 日で公開された。現在もホームページ上で公開している (URL: <https://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/event/images/asobou/sugoroku1.pdf>)



●このすごろくは、壬申の乱 1350 年を記念して 2022 年 12 月に大津市歴史博物館が制作しました。

【1-3-1】講師・調査派遣等の状況（令和4年度）

1 講師派遣

5月20日	近江の諸藩を学ぶ～膳所藩史跡現地見学会～	近江歴史回廊倶楽部
5月28日	大津まちなか大学大津祭学部「大津町の歴史」	NP0 法人大津祭曳山連盟
5月31日	『大津城址』ミニ歴史散歩	大津市立図書館
6月4日	和邇北浜地区の歴史を探る	和邇北浜公民館
6月16日	膳所藩と水運－古文書・古記録調査から－	膳所歴史サークル
7月20日	膳所藩士たちの地蔵盆 －草堀地蔵尊の歴史からたどる－	膳所公民館
7月9日	大津人実践講座「大友皇子と壬申の乱」	教育委員会生涯学習課
7月24日	いぶき歴史アカデミー「木曾義仲と義仲寺」	米原市伊吹山文化資料館
8月27日	大津城の戦いについて	びわ湖大津観光協会
10月23日		
9月11日	仰木の里学区地域元気づくり事業講演会「仰木を治めた二人の女性～京極龍子と賀子内親王～」	仰木の里学区自治連合会
10月2日	景観づくりチャレンジ隊（近江八景の解説）	びわ湖大津草津景観推進協議会
10月16日	高島の仏教絵画とその世界	高島歴史民俗資料館
10月30日	海蔵寺の仏涅槃図	海蔵寺
11月15日	大津市新規採用職員研修「大津の歴史」	大津市人事課
17日、18日		
12月10日	堅田を襲った歴史地震	本福寺
1月26日	館内研修「大津百町のイロハ」	大津市立図書館
2月12日	壬申の乱1350年記念講演会 「壬申の乱と大友皇子」	飛鳥・平城宮跡歴史公園サポート共同体平常宮跡管理センター
1月31日	小中学校新規採用教員初任者研修	大津市教育センター
2月2日	「歴史博物館の活用と大津の歴史」	
2月15日	国登録文化財 御料理豆信の昼餉と見学	大津宿場町構想実行委員会（大津まちなか大学大津百町おもてなし学部）
3月8日	柴屋町界隈まちあるき	
3月21日	西徳寺の宝物紹介と大江の歴史	西徳寺

2 調査派遣

7月12日～15日	園城寺一切経調査	文化庁
1月17日	市内の仏像調査	大阪府茨木市

3 委員等

- ・ 滋賀県博物館協議会 理事、研修委員、広報委員（滋賀県博物館協議会）
- ・ 清水寺史編纂委員会 委員
- ・ 総本山知恩院史料編纂所 編纂員
- ・ 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境研究所 共同研究員
- ・ 『西教寺の仏教美術』編纂委員（天台真盛宗総本山西教寺）
- ・ 『園城寺の仏像』編纂委員（天台寺門宗総本山園城寺）
- ・ 独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館調査員（彫刻）
- ・ 独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館 収蔵品修復業者選定委員（彫刻・絵画）
- ・ 収蔵品価格評価委員（滋賀県立陶芸の森陶芸館）
- ・ 「大津百町百福物語」ブランド選考委員会 委員（大津商工会議所）
- ・ 大津市大河ドラマ「光る君へ」活用推進協議会 会員（大津市観光振興課）
- ・ 大津市歴史的風致向上協議会 委員（大津市都市魅力づくり推進課）

【1-3-2】収蔵資料の貸出し状況・特別利用の状況（令和4年度）

○中之島 香雪美術館

企画展「来迎 たいせつな人との別れのために」 会期：令和4年4月9日～5月22日

- ・滋賀県指定文化財 阿弥陀三尊来迎図 鎌倉時代 1幅 光明寺蔵（寄託品）
- ・二十五菩薩来迎図 室町時代 2幅 上品寺蔵（寄託品）
- ・聖衆来迎図 1幅 乗念寺蔵（寄託品）

○豊川市桜ヶ丘ミュージアム

特別展「元祖 豊川のブランドマーク!? とよかわ 紋・藩ワールド」

会期：令和4年10月8日～11月27日

- ・龍谷伏龍祠記 江戸時代 1巻 個人蔵（寄託品）

○草津市立草津宿街道交流館

令和4年度秋季テーマ展「湖国の佳人—近江ゆかりの浮世絵美人画」

会期：令和4年10月15日～11月13日

- | | | | | |
|--------------------|-----------|------|----|-----|
| ・近江八景〈藤慶版〉瀬田夕照 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景〈藤慶版〉栗津晴嵐 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景〈藤慶版〉矢橋帰帆 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景〈藤慶版〉三井晩鐘 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景〈藤慶版〉唐崎夜雨 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景〈藤慶版〉堅田落雁 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景の内石山秋月 | 二代歌川国貞 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景の内三井晩鐘 | 二代歌川国貞 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景眺望 | 一寿斎芳員 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・其由縁 近江八景 | 歌川芳虎 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・近江八景全図石山より見る | 三代歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・小倉擬百人一首 巴御前 | 歌川広重 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・観音霊験記西国巡礼十四番近江三井寺 | 歌川広重・歌川豊国 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・花源氏之図一若木の元服 | 歌川国貞 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |
| ・千代田の大奥お櫛あげ | 楊洲周延 | 江戸時代 | 1点 | 本館蔵 |

○朝日町歴史博物館

開館25周年記念企画展「縄生廃寺からみる古代の眺め—古代寺院と社会—」

会期：令和4年11月2日～12月4日

- ・崇福寺跡出土舍利容器(複製) 一式(4点) 本館蔵

○静岡市美術館

「東海道之美 駿河への旅」 会期：令和5年2月11日～3月26日

- ・東海道名所図 江戸時代 6曲1双 本館蔵

○博物館資料の特別利用 62件（令和5年3月17日現在）

【1-3-3】貸しギャラリーの利用状況（令和4年4月～令和5年2月）

	展示期間	展覧会名	主催	観覧者数	展示室
1	4/7～4/10	第16回洋画合同作品展	油絵同好会	302	B
2	4/13～4/17	移りゆく季節の中で「彩花譜」	三上暉雄	248	B
3	4/29～5/1	第35回シルバー書道展滋賀展	シルバー書道展滋賀展実行委員会	697	A
4	4/29～5/1	第17回滋賀書作家協会会員展	滋賀書作家協会	720	B
5	5/10～5/15	第67回滋賀県美術協会展	滋賀県美術協会	700	A・B
6	5/17～5/22	美術サークル4.0展	美術サークル4.0	652	A
7	5/18～5/22	滋賀水彩展	滋賀水彩画会	300	B
8	5/24～5/29	湖青会	湖青会	199	B
9	6/2～6/5	第24回花寿会合同作品展	花寿会	350	B
10	6/16～6/22 6/25～7/1	大津市美術展覧会 大津市写真展覧会	大津市湖都実行委員会	2,592	A・B
11	7/5～7/10	2022 CAF.Nびわこ展	CAF.Nびわこ展	243	A・B
12	9/2～9/4	大津市保育園・こども園 園児作品展	大津市保育協議会	1,872	A
13	9/15～9/19	第42回滋賀県書展	滋賀県書道協会	512	A・B
14	9/21～9/25	第22回錦織美術倶楽部作品展	錦織美術倶楽部	302	B
15	11/8～11/13	令和4年度 現代大津絵展	日本大津絵文化協会	568	B
16	12/7～12/11	第4回大津写真連盟合同写真展覧会	大津写真連盟	224	B
17	12/9～12/11	大津市立幼稚園こども展	大津市教育委員会、大津市立幼稚園長会	1,804	A
18	12/16～12/18	寒玉香樹会書道展	香樹会	159	B
19	1/7～1/9	第40回雅友書展	雅友会	570	A・B
20	1/13～1/17	大津市小・中学校児童生徒書き初め展	大津市教育委員会	2,067	A・B
21	1/19～1/25	大津絵特別支援学級・養護学校作品展	大津市教育委員会	2,418	A・B
22	1/27～1/31	令和4年度 大津の子ども総合美術展	大津市教育委員会	1,732	A・B
23	2/10～2/12	第62回滋賀県書き初め展覧会	（公社）滋賀県書道協会	7,265	A・B
24	2/17～2/19	滋賀県高等学校書道科教員作品展	県高教研書道部会	116	B
25	3/24～3/26	第20回滋賀県立膳所高等学校書道部書展	膳所高校書道部	217	B

合計

令和4年度 25回

総観覧者数
※3月開催分を除く 26,829 人

対前年度 2,717 増

参考

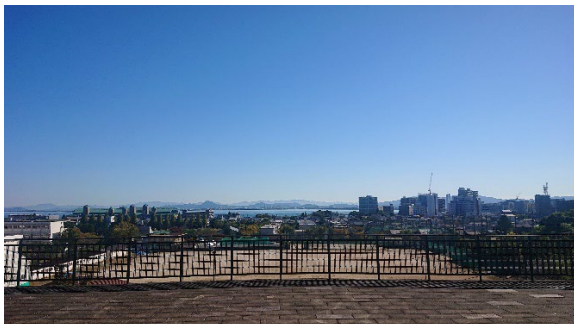
令和3年度	27回	総観覧者数	24,112 人
令和2年度	16回	総観覧者数	16,645 人
令和元年(平成31年)度	29回	総観覧者数	34,824 人
平成30年度	32回	総観覧者数	35,095 人
平成29年度	40回	総観覧者数	43,225 人
平成28年度	37回	総観覧者数	38,828 人
平成27年度	37回	総観覧者数	42,591 人

【1-3-4】施設の活用（キッチンカー・ロビー展示等）

◇秋季企画展「大友皇子と壬申の乱」でのキッチンカーの出店について

当館は館内飲食禁止だが、博物館施設の利活用のために、秋の展覧会にあわせて正面玄関テラス前で、キッチンカー販売を試験的に実施し、テラスで飲食出来るスペースを提供した。

- 1 期間 令和4年10月8日（土）から11月23日（水・祝）までのうち 計14日間
- 2 場所 歴史博物館正面玄関テラス前の軽自動車2台程度のスペース
- 3 事業者数 11事業者（キッチンカー6店舗、物販5店舗）
- 4 利用人数 のべ708名（事業者報告）
（内訳）平 日 382名/5日間（1日平均76名）
土日祝 326名/9日間（1日平均36名）
- 5 出店事業者の声
 - ・ 事業者への聞き取りでは総販売数が1,400個を超え、商品が売り切れる店舗もあった。
 - ・ キッチンカーだけでなく、身障者の就労支援の事業者からも物販の出店があった。
 - ・ 聞き取りではキッチンカー事業者を中心に、今後も参加したいという意見が聞かれた。
- 6 利用者の声
 - ・ 「公共の敷地開放賛成。ロケーションが良いので、今後もやって欲しい。」や「三井寺周辺が盛り上がればいいですね、今後も成功を願います。」などの声が聞かれた。
- 7 評価と今後の展開について
 - ・ 博物館周辺は飲食できる場所が少なく、案内できる場所が限られていたため、多くの来館者が訪れる企画展期間中の事業として、一定の成果をあげることができた。平日には周辺施設（市役所・学校等）職員の利用もあった。
 - ・ 出店者や利用者の意見もおおむね好評であったことから、公共施設の活用と面で一定の効果があつた。また、事業者が積極的にSNS等で広報をしこともあり、幅広く情報発信できた。
 - ・ ゴミや飲食物の持ち込みなどに関しては、事業者の協力もあり、問題なく終えることができた。また、館内への飲食物持ち込みに関するトラブルもなかった。
 - ・ 屋外であることから、気候の良い時期の企画展を中心に事業実験を継続し、翌年度の大河ドラマ関連事業を視野に入れた、にぎわいづくりにつなげたい。



玄関前のテラス（歴博 TERRACE と命名）



キッチンカー

◇1階ロビーの活用

昨年3月に2階展望ロビーで、びわ湖毎日マラソンの振り返り展（市スポーツ課主催）を開催したが、今年度も夏のミニ企画展「戦時中の紙芝居」にあわせて、大津市遺族連合会の協力を得て、ロビー展「戦地からの手紙」を行なった。また、今年度から始まった未指定文化財調査事業のうち、大津の食文化調査事業に関連して、ロビー展示「木型で誘う菓都大津」を開催した。また、ミニ企画展「大津の小学校150年」では、大津市内の小学校舎の古写真をロビーに展示した。無料エリアであるロビーは、貸しギャラリー観覧者も気軽に観覧できるため、今後も機会あるごとに活用したい。

ロビー展「戦地からの手紙」

会期 令和4年8月2日(火)から9月4日(日)まで

内容 市遺族連合会の会員の方々からご提供いただいた戦地からの手紙を展示

主催 大津市歴史博物館

協力 大津市遺族連合会



展示した戦地からの手紙



手紙の一部を朗読で放映

ロビー展示「木型で誘う菓都大津」

大津市歴史博物館 未指定文化財調査事業「大津の食文化調査プロジェクト」



木型で誘う菓都大津

2023年 1月6日[金]～1月22日[日]

開催会場＝大津市歴史博物館 1階エントランスロビー
開催時間＝9:00～17:00
休館日＝1月10日(火)、16日(月)
入場料＝無料
主催＝立命館大学 食マネジメント学部 鎌谷かおる研究室、大津市歴史博物館
後援＝立命館大学食マネジメント学部、立命館大学食総合研究センター、立命館大学BKCリサーチオフィス

【本展は11月21日～11月22日に立命館大学びわこキャンパスで開催された展示の延長版です。本展場は2023年度立命館大学びわこキャンパス「シェン・アサヒタカ」の研究成果の一環です。

会期 令和5年1月6日(金)から1月22日(日)まで

内容 今年度の調査報告と堅田に伝わる菓子木型の展示

主催 立命館大学 食マネジメント学部 鎌谷かおる研究室、大津市歴史博物館

後援 立命館大学食マネジメント学部、立命館大学食総合研究センター、立命館大学 BKC リサーチオフィス



〔参考Ⅰ〕 大津市歴史博物館の概要

Ⅰ. 博物館の概要

- ・開館日：平成2年10月28日
- ・博物館法の分類：登録博物館（平成8年度より重要文化財公開承認施設）
- ・博物館の運営方針：当館は、大津の豊かな歴史と文化を調査研究し、その成果を常設展示や企画展をはじめとする様々な事業のなかで紹介し、地域への理解と愛着を深めていただくことを目的に博物館活動を重ねています。

2. 主な活動

① 展示活動

a. 常設展示「大津の歴史と文化」

南北に細長い地理的特質を持ち、各地域ごとに異なった歴史と文化を形成するという大津市の特徴から、地域に焦点を当てた6つのコーナーからなる「テーマ展示」と、大津市全域の歴史を年代順にたどる「歴史年表展示」によって構成しています。

また、平成11年度から常設展示内の1コーナーを「ミニ企画展」と名づけ、博物館の収蔵品や調査成果を踏まえて、2ヶ月程度を会期に年間7～8回、様々なテーマの小展示を行っています。

b. 企画展示

当館には企画展示室A（約500㎡）と企画展示室B（約250㎡）があります。これらの展示室で年間3回程度の企画展を実施しています。

② 資料の調査収集、研究活動

市内を中心に、大津に関係する資料の調査を日常の博物館活動として実施しています。またこうした活動の中で資料の収集を行い、博物館収蔵品の充実と文化財の保護を行うとともに、レファレンス対応の基礎資料としています。こうした活動は開館以来継続して行ってきましたが、令和3年度からは未指定文化財調査事業として様々な目的を設定し、より積極的に取り組んでいます。

③ 普及活動

a. れきはく講座

開館当初より「土曜講座」や現地見学会「ふるさと大津歴史教室」を実施してきましたが、現在は「れきはく講座」という名称に統一し、年間30回程度の講座を開催しています。

b. 夏休み子どもワークショップ

平成14年度から、成安造形大学と共同で実施しています。

c. れきはくカード

1年間有効の定期券で、常設展示、企画展示を観覧いただけるほか、れきはく講座や刊行物の割引等を受けられます。会員数414名（令和5年2月末現在）。

④ その他

a. 貸館（企画展示室の利用）

当館が企画展示室を使用していない期間に限り、同室をギャラリーとして利用できるようにしています。大津市美術展覧会や市内小中学校の絵画・書道の展示など、市民の芸術活動の発表の場としてご利用いただいています。

3. ここ5年間の主な活動

①利用者数の推移

(人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
常設展示観覧者数	17,592	21,408	19,661	20,667	16,019
企画展観覧者数	9,576	22,504	14,833	11,633	10,298
講座等参加者数	3,250	2,906	3,968	630	1,500
貸館観覧者数	43,225	35,095	34,824	16,645	24,112
館外展示観覧者数	877	313	—	—	—
総利用者数	74,520	82,416	73,286	49,575	51,929

②企画展の開催状況

平成29年度 「田上てぬぐいー暮らしと文化ー」

《大津京遷都1350年記念》 企画展「大津の都と白鳳寺院」

本多氏入封400年記念企画展「膳所城と藩政ー築城から幕末十一烈士事件までー」

平成30年度 大津市制120周年記念企画展「60年前の大津」

湖信会設立60周年記念企画展「神仏のかたちー湖都大津の仏像と神像ー」

「フェノロサの愛した寺 法明院ー三井寺北院の名刹ー」

令和元年度 「大津南部の仏像ー旧栗太郡の神仏ー」

「大津絵ーヨーロッパの視点からー」

重要文化財「大津百艘船関係資料」指定記念「江戸時代の琵琶湖水運」

令和2年度 特集展示「明智光秀と戦国時代の大津」

重要文化財指定記念特別展示「金台院蔵「天台三祖師像」と天台の祖師」

開館30周年記念企画展「聖衆来迎寺と盛安寺ー明智光秀ゆかりの下阪本の社寺ー」

開館30周年記念企画展「芭蕉翁絵詞伝と義仲寺

令和3年度 「大津のどうぶつ博物館」

聖徳太子1400年御遠忌・伝教大師1200年御遠忌記念企画展

「西教寺ー大津の天台真盛宗の至宝ー」

山元春挙生誕150年記念企画展「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」

③企画展示室利用件数の推移

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
40件	33件	34件 (うち4件中止)	13件	27件

〔参考２〕大津市歴史博物館の基本的運営方針について

■「大津市歴史博物館基本的運営方針」策定の経過

大津市歴史博物館は平成２年１０月に開館しました。以来、資料調査及び常設展示・企画展示・れきはく講座・ホームページ等による歴史情報の発信等、さまざまな事業に取り組んできましたが、この間、博物館をとりまく社会状況の変化のなかで、あらためて今、博物館の存在意義が問われています。

そういった状況のもと、平成２３年１２月２０日付で、文部科学省より「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示されました。同告示においては、博物館の設置目的を踏まえた基本的運営方針、年度ごとの事業計画の策定に努めることとされ、また、利用者及び地域住民、社会の要望への留意、学校、他の博物館等との緊密な連携、協力を努めるものとする等が提示されました。

それに基づき、大津市歴史博物館では、あらためて平成２６年度から、「基本的運営方針」の原案作成に着手しました。原案作成にあたっては、附属機関である大津市歴史博物館協議会に原案を諮問し、２年間に渡る討議を経て、同協議会から出された答申をもとに、このたび「大津市歴史博物館が目指すもの」「大津市の歴史と文化の魅力とは」「基本的運営方針と活動目標」からなる基本的運営方針の原案を作成しました。この原案について、平成２９年２月１７日から３月８日の間に実施したパブリックコメント、大津市教育委員会定例会における議決を経て、策定いたしました。

なお、この基本的運営方針については、「大津市教育振興基本計画」の策定年度である平成３２年度から５年ごとを目途に、必要に応じて見直すこととしています。

■大津市歴史博物館の基本的運営方針（平成２９年３月２３日策定）

Ⅰ、大津市歴史博物館が目指すもの

・豊かな歴史と文化をともに学び、ともに未来へ引き継ぐ

歴史博物館は、大津市の豊かな歴史と文化の素晴らしさを、そこに暮らす人々とともに学ぶことによって、郷土への愛着と誇りを育むとともに、多様でかつ地域性豊かな郷土の魅力を発信し、その担い手を育て、さらに未来へと引き継いでいきます。そして、人と人、人とモノとの出会いによって生みだされる学びの楽しさを、子どもたちをはじめとする幅広い世代の人々とともに分かち合える場となるような博物館を目指します。それとともに、誰もが暮らしてよかった、訪れてよかったと思えるような大津市のまちづくりにも寄与することを、歴史博物館の使命とします。

Ⅱ、大津市の歴史と文化の魅力とは

（Ⅰ）琵琶湖と緑の山々の豊かな自然の恵みによって育まれた歴史と文化

大津市は、魅力にあふれた都市です。日本一広い琵琶湖が、目の前に広がっています。背後は、緑の山々に囲まれています。その豊かな自然の恵みにより、先人たちは、大津市ならではの歴史と文化を育んできました。大津京、渡来文化を示す遺跡、仏教文化の聖地、水陸交通の要所、大

津絵と近江八景、明治以降の近代化など。その魅力は多様で、またこれから、さらなる調査によって、新たな魅力が発見されていくことでしょう。

(2) 個性あふれる地域によって生み出された多様な歴史と文化

大津市は、明治31年（1898）の市制施行以来、度重なる合併により、市域が南北に細長いという地理的な特徴を持っています。山村部、湖辺や農村、また門前町・宿場町・港町・城下町といった都市部など、それらの多様な特徴を持つ地域に暮らす人々の営みによって、大津市には、個性豊かな歴史と文化が育まれてきました。

(3) 数多くの国宝・重要文化財が残される一方、未指定の埋もれた文化財が人知れず眠る、未知の可能性を秘めた歴史と文化

世界遺産を擁する大津市には、国宝・重要文化財といった国指定文化財が、京都市・奈良市に次いで3番目と、数多く残されています。また、未指定で、地域の人々によって守られてきた文化財も豊富です。それでもまだ、人知れず埋もれている文化財が、多く眠っています。大津市の歴史と文化は、未知の可能性を秘めた魅力にあふれています。

(4) 日本の各地域へ、さらに世界へと広がる歴史と文化

歴史をさかのぼると、中国大陆や朝鮮半島からの渡来文化、インドで発祥し、シルクロードを通じて我が国に伝えられた仏教、延暦寺・園城寺・西教寺・石山寺や日吉大社など日本の神仏信仰の中心的な位置にある多くの社寺、さらに、東西交通の要所といえる琵琶湖水運や東海道、北国海道、峠越えの道などの陸上交通。大津市の歴史と文化は、全国、さらに世界へと、無限の広がりを持っています。

3、基本的運営方針・活動目標

基本的運営方針 Ⅰ

地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

大津市の歴史と文化の魅力でも触れたように、国指定文化財の豊かさとともに、市内の各地域には、地域性を持つ未指定の文化財が人知れず眠っています。また、日本の各地に、歴史的なつながりを示す文化財も数多く残されています。それらの文化財を守ってこられた地域の人々とともに調査し、その保存、活用について考えます。

◇活動目標(Ⅰ) 資料の調査収集・研究活動の推進

市内、市外を問わず、本市の歴史と文化の特徴に関わる資料を積極的に調査収集し研究する。調査に際しては、資料所蔵者（個人・団体を含む）への取材により、資料の伝来状況を記録し、資料の持つ歴史的意義について明らかにする。

(具体的事業案)

- ① **継続的な資料調査の実施** 調査対象資料は、絵画・彫刻・工芸・歴史・古文書・民俗・考古の各分野とする。また、分野を超えた複合的な調査・収集を、適宜実施することにより、資料に対する新たな価値を見出す。
- ② **他機関等専門家との合同による資料調査** 文化庁、関係研究機関（大学・博物館など）との合同調査を積極的に実施し、資料の歴史的意義を明らかにする。

- ③ **資料調査成果の発表と共有化** 資料調査の成果を『大津市歴史博物館研究紀要』等の学術雑誌や研究会において発表することにより、大津市の豊かな歴史と文化の共有化を図る。

◇活動目標(2) 調査によって得られた情報のデータ化と収蔵資料の充実

調査収集した資料の整理と目録化を行うとともに、当館で導入している「歴史博物館収蔵品データベース」に蓄積し、今後の活用可能な基礎データとする。

(具体的事業案)

- ① **調査資料の詳細なデータ化** 調査資料の整理にあたっては、調査で得られたあらゆる情報（聞き取り調査も含め）を「収蔵品データベース」等に蓄積し、資料がもつ情報を含めて次代に引き継ぐ。
- ② **収蔵資料の充実** 購入・受贈・受託などの方法による博物館収蔵資料の充実につとめ、展示、レファレンス等への活用を図る。
- ③ **収蔵資料保存に向けた施設の充実** 定期的な資料の燻蒸により、保存環境を良好に保つとともに、空調機器など設備の維持管理、改修につとめる。また、資料の収蔵スペースの確保についても検討する。

◇活動目標(3) 地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進

資料調査の成果を所蔵者に還元し、資料保存に関する情報の共有化を進める。また資料をもとにした地域学習の要望に対して博物館も積極的に参加し、その活用方法などについて、ともに考える。

(具体的事業案)

- ① **資料保存についての情報の共有化** 博物館と地域で資料の保存環境に関する情報を共有化し、資料の劣化や散逸を防ぐ。
- ② **資料を活用した共同学習の推進** 資料を素材とした地域学習の要望に対し、博物館も積極的に参加し、その活用方法について、ともに考え、資料に盛り込まれた地域の特性についての共同学習を進める。

基本的運営方針 2

あらゆる世代、あらゆる地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

調査によって収集した、大津市の歴史と文化の魅力を、未来を担う子どもや若者をはじめとするあらゆる世代、市内外を含めたあらゆる地域の人々に伝え、そして歴史と文化の新たな担い手を育てるために、その共有化に向けた情報を発信していきます。また発信にあたっては、幅広いテーマによる企画展示の開催、歴史博物館や地域での体験も含めた講座の開催、蓄積したデータのインターネット等を通じた積極的な公開などを、親しみやすさに焦点を当てながら実施していきます。

◇活動目標(1) 常設展示の充実

資料の調査、研究によって得られた新たな情報を常設展示によって紹介し、常に新鮮な情報

を発信する。また、利用者のニーズを把握し、展示内容に反映させるとともに、将来の改修に向けた準備を行う。

(具体的事業案)

- ① **ミニ企画展・特別公開などの充実** 大津絵・近江八景など、大津市ならではの歴史と文化の魅力を示す資料を、ミニ企画展において定期的に公開していくとともに、資料調査によって得られた新発見資料のタイムリーな公開につとめる。
- ② **展示解説シートの作成と活用** 常設展示の内容や大津の歴史に関する理解をより深めるための解説シートを作成するとともに、事前学習にも利用できるように、ホームページ等で公開し、利用の促進を図る。また海外からの観光客誘致に向けて、多言語版解説シートを作成する。
- ③ **展示解説の充実** 現在運用中の音声ガイドの内容充実に加え、観覧者の展示内容に対する理解を深める様々な解説方法を模索する。
- ④ **常設展示の見直し** 観覧者アンケート等により、満足度・リピーター率等を把握するほか、意見の集約により、展示内容の充実を図るとともに、今後の展示改装に向けた基礎資料として活用する。

◇活動目標(2) 企画展示の充実

企画展示のテーマとして、国指定などを始めとする一級の文化財の鑑賞機会を提供するとともに、個性あふれる地域の魅力に焦点を当てた企画展、タイムリーなテーマによる企画展を開催し、大津市の歴史と文化の素晴らしさを広く発信する。

(具体的事業案)

- ① **指定文化財の公開** 日頃、目にすることの少ない指定文化財(国・県・市指定)の鑑賞機会を来館者に提供する。
- ② **資料調査の成果を盛り込んだ企画展の開催** 大津市の歴史と文化の特徴として挙げた、個性あふれる地域の魅力等を重視したテーマによる企画展を開催する。
- ③ **企画展示開催方法の検討** 企画展開催にあたっては、展示内容への理解を深めるため、れきはく講座と連動させるなど、多様な試みを模索する。また他の博物館や文化施設等と連携し、幅広い視点で地域の魅力を明らかにする。
- ④ **親しみやすい企画展** 利用者のニーズに応じたテーマでの企画を検討する。また、解説などについても分かりやすさ、親しみやすさを念頭においた工夫と見直しを常に行う。

◇活動目標(3) 子ども・若者に対する学習支援の推進

子ども・若者を、大津市の歴史と文化の魅力を未来へ引き継ぐ担い手として育てていくため、各年代層に応じた、学習に関する支援を積極的に進めていく。

(具体的事業案)

- ① **小中学生来館に対する学習支援** 学校団体観覧をはじめ、来館する児童・生徒に向けた、常設展示解説シート、ワークシートを新たに作成し、歴史と文化の普及を図るとともに、受入れの促進を図る。
- ② **小中学校への出張授業** 主に、小学校3年生の学習分野「昔の道具、昔の暮らしを学ぶ」、

6年生の社会科歴史分野に対応した出張授業を実施するとともに、学校現場での授業支援に向けた副教材を作成する。

- ③ **親子で学ぶ歴史講座の開催** 大津市全体や地域の歴史、また博物館資料や施設及び活動に関する講座を、体験型に力点を置きながら実施する。
- ④ **子ども・若者に対する多様な学習支援** 子ども・若者に対し、館内や地域での資料調査など、学芸員の仕事を体験してもらうとともに、自発的な郷土学習に対する支援を行うことで、文化財の保存や伝承に対する意識の普及を図る。

◇活動目標(4) 幅広い世代に向けた積極的な情報発信

博物館が持っている資料や情報を、れきはく講座やホームページ等を通じて積極的に発信することにより、市民等の生涯学習に対するニーズに応える。

(具体的事業案)

- ① **れきはく講座の開催** 現在、毎週土曜日を基本として開催している、博物館講堂での講座と年4回程度の現地見学会を、今後も継続実施するとともに、参加者のニーズを把握し、講座内容の充実を図る。
- ② **公民館講座等への講師派遣** 地域の公民館、市民の歴史サークル、各種団体などで開催される講座に講師を派遣し、大津市の歴史と文化の普及を図る。
- ③ **れきはくホームページの充実** 博物館の案内や展示の紹介以外に、大津の歴史と文化を示す資料のデータを高精細画像によって提供し、歴史博物館を訪れることなく、自宅でも、より詳細な資料の検索を可能とする。
- ④ **報道機関への情報提供** 企画展、ミニ企画展を始め、調査による新発見資料等を随時記者発表し、博物館活動の内容を幅広く広報する。

基本的運営方針 3

大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

「大津市総合計画」「教育振興基本計画」に基づき、大津市の歴史と文化の魅力をさらに広く発信するために、学校教育、社会教育の諸活動、都市計画、観光に関わる諸事業、市民ボランティアやまちづくりを目指す大学や各種団体、企業、歴史的に関係の深い文化施設および自治体などと連携し、博物館事業を進めます。そして、大津市の魅力を、人々が共有し、暮らしに活かせるような歴史と文化のあらゆる情報に応えるセンターとしての役割を担います。

◇活動目標(1) 大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携

大津市の各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携を図りながら、本市の歴史情報発信の核としての役割を果たす。

(具体的事業案)

- ① **大津市教育委員会、市長部局各課との連携** 文化財保護課、生涯学習課、市立図書館、都市計画や観光等の諸計画と連携を図り、本市行政における大津の歴史と文化推進事業

の核としての役割を果たす。

- ② **市内大学、文化施設等との連携** 平成14年度から開催している成安造形大学との連携による「夏休み子どもワークショップ」、同24年から実施している県立びわ湖ホールでのラ・フォル・ジュルネ事業との連携等により、大津の歴史と文化の魅力を、市民等と共有する取り組みを行う。

◇活動目標(2) 歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う

歴史博物館で調査収集した資料を幅広く提供するとともに、博物館展示室を広くギャラリーとして活用し、歴史と文化の普及に関するセンターとしての役割を担う。

(具体的事業案)

- ① **他の博物館等展覧会に係る収蔵資料の貸し出し** 他の博物館、各種団体等が開催する展覧会に対し、博物館所蔵資料等の貸し出しを行うことで、本市の歴史と文化普及の核としての役割を果たす。
- ② **博物館資料の幅広い活用** 博物館所蔵資料等を、地域の文化活動や福祉活動、書籍の出版や個人の調査、研究などに幅広く提供し、その活用を推進する。
- ③ **レファレンス対応** 市民や報道機関などから、メール、電話、手紙、来館などによる問い合わせへの対応。
- ④ **企画展示室の活用** 企画展示室を大津市美術展や教育委員会主催事業の会場として提供するほか、広く市民ギャラリーとしても貸し出し、文化的活動への活用を図る。

○大津市歴史博物館条例

平成2年3月22日

条例第1号

(令和4年4月1日施行)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、本市に歴史博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 大津市歴史博物館

位置 大津市御陵町2番2号

(事業)

第3条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、美術工芸等に関する資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、調査研究し、展示し、及び利用に供すること。
- (2) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (3) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会、見学会等を開催すること。
- (4) 博物館資料の展示のほか、美術等に関する展覧会の場として企画展示室を利用に供すること。
- (5) その他博物館の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第4条 博物館の常設展示又は特別展示を観覧しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。

2 常設展示の観覧料は、別表第1に定めるとおりとする。

3 特別展示の観覧料は、その都度市長が定める。

4 市長は、博物館の観覧について、前売券その他の特別観覧券を発行することができる。

5 前項の特別観覧券の料金は、その都度市長が定める。

(博物館資料の特別利用)

第5条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影、写真原板の使用等をしようとする者は、市長に申請し、その許可を受けなければならない。

2 博物館資料の撮影又は写真原板の使用の許可を受けた者は、別表第2に定める使用料を使用の許可の際に納付しなければならない。

(企画展示室の使用許可等)

第6条 博物館の企画展示室を使用しようとする者は、市長に申請し、その許可を受けなければならない。

2 博物館の企画展示室の使用の許可を受けた者は、別表第3に定める使用料を使用の許可の際に納付しなければならない。

(観覧料及び使用料の減免)

第7条 市長は、特に必要があると認めるときは、観覧料及び使用料を減額し、又は免除することができる。

(観覧料及び使用料の返還)

第8条 既納の観覧料及び使用料は、返還しない。ただし、市長が特別の理由があると認めたときは、その全部又は一部を返還することができる。

(歴史博物館協議会)

第9条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、博物館に大津市歴史博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会の委員の定数は、20 人以内とする。
- 3 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。
 - (1) 学校教育及び社会教育の関係者
 - (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
 - (3) 学識経験を有する者
 - (4) 市長が行う委員の公募に応募した市民
- 4 前項第 4 号の規定にかかわらず、公募を実施しても応募者がなかったとき、又は適任者がなかったときは、同号に掲げる者のうちから委員を委嘱しないことができる。
- 5 協議会の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。

(委任)

第 10 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理運営等について必要な事項は、規則で定める。

別表第 1(第 4 条関係)

区分	観覧料(1 人 1 回につき)	
	個人利用	団体利用(15 人以上)
小学生・中学生	160 円	130 円
高校生・大学生	240 円	190 円
一般	330 円	260 円

備考

- 1 この表中「一般」とは、小学校に就学するまでの者、小学生、中学生、高校生及び大学生以外の者をいう。
- 2 小学校に就学するまでの者は、無料とする。
- 3 市内に住所を有する者で、65 歳以上のものは、この表の一般の項に定める額の 5 割に相当する額(その額に 10 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額)とする。
- 4 次の各号のいずれかに該当する者は、この表の規定にかかわらず、無料とする。
 - (1) 市内に住所を有する者で、身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条に規定する身体障害者手帳の交付を受けているもの
 - (2) 市内に住所を有する者で、滋賀県知事から知的障害者の療育手帳の交付を受けているもの
 - (3) 市内に住所を有する者で、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けているもの
 - (4) 市内に住所を有する者で、介護保険法(平成 9 年法律第 123 号)第 19 条第 1 項に規定する要介護認定又は同条第 2 項に規定する要支援認定を受けているもの
 - (5) 前各号に規定する者を介護する者(前各号に規定する者 1 人につき 1 人に限る。)

別表第 2(第 5 条関係)

(平 17 条例 25・追加、平 25 条例 81・平 31 条例 21・一部改正)

区分	使用料
ビデオ撮影	1 点 1 回につき 6,600 円
写真撮影	1 点 1 回につき 3,300 円
写真原板の使用	写真原板 1 枚 1 回につき 2,200 円

別表第3(第6条関係)

(平25条例81・全改・一部改正、平31条例21・一部改正)

室名	使用時間	使用料	
		市民	市民以外の者
企画展示室 A	午前9時から午後5時まで	32,130 円	48,190 円
企画展示室 B		15,310 円	22,960 円

備考 使用者が入場料その他これに類する料金(以下「入場料等」という。)を徴収する場合の使用料は、この表による使用料の額に次に定める割合に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額)を加算した額とする。

- (1) 入場料等のうち最高額のものが1,000円以下の場合 3割
- (2) 入場料等のうち最高額のものが1,000円を超える場合 5割

○大津市歴史博物館の管理運営に関する規則

令和4年4月1日

規則第23号

(令和4年4月1日施行)

(趣旨)

第1条 この規則は、大津市歴史博物館条例(平成2年条例第1号。以下「条例」という。)第10条の規定に基づき、大津市歴史博物館(以下「博物館」という。)の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)

(2) 休日の翌日(日曜日、土曜日又は休日である場合を除く。)

(3) 12月27日から翌年1月5日まで

2 前項の規定にかかわらず、市長は、特に必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、常設展示及び特別展示の観覧に係る入場時間は、午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、市長は、特に必要があると認めるときは、開館時間等を変更することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館させることができる。

(1) 博物館の施設若しくは設備又は博物館資料等を汚損し、又は損傷するおそれのある者

(2) 他人に危害を及ぼし、若しくは迷惑となる行為をするおそれのある者又はそのおそれのある物品、動物その他これらに類するものを携帯する者

(3) その他博物館の管理上必要な指示に従わない者

(入館者の遵守事項)

第5条 入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 博物館の施設若しくは設備又は博物館資料等を汚損し、又は損傷しないこと。

(2) 他の入館者に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

(3) 展示資料に触れないこと。

(4) 常設展示室、企画展示室及び資料閲覧室においてインク、墨汁等を使用しないこと。

(5) 許可を受けなくて、展示資料の撮影、模写等を行わないこと。

(6) 所定の場所以外において飲食をしないこと。

(7) 博物館及びその敷地内において喫煙しないこと。

(8) 博物館において、物品その他の物を販売し、又は金品の寄付募集等を行わないこと。

(9) その他係員の指示に従うこと。

(観覧券の発行等)

第6条 条例第4条第1項の観覧料は、常設展示及び特別展示ともそれぞれ観覧券を発行して徴収するものとする。

2 条例第4条第4項の特別観覧券の種類及びその内容は、次に掲げるとおりとする。

(1) 特別展示前売観覧券 市長が博物館の事業上必要と認めるときに発行するもの

- (2) 招待券 博物館資料の提供者その他市長が博物館の事業上特別の理由があると認める者に対して発行するもの
- (3) 優待券 市長が博物館の運営上必要と認める関係機関の者に対して発行するもの
- (4) 定期券 券面に氏名を記載されている者が、その発行の日から1年を経過した日の属する月の末日までの間、特別展示及び常設展示とも観覧できるもの

3 観覧券及び特別観覧券は、再発行しないものとする。

(博物館資料の特別利用の許可等)

第7条 条例第5条の規定に基づく博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影、写真原板の使用等(以下「特別利用」という。)の許可の申請は、あらかじめ大津市歴史博物館資料特別利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出して行わなければならない。

2 館長は、前項の申請書を受理した場合は、これを審査の上、特別利用の可否を決定し、特別利用を許可するときは、大津市歴史博物館資料特別利用許可書(様式第2号)を当該申請をした者に交付する。

3 館長は、特別利用の許可をする場合において必要があるときは、当該許可に条件を付することができる。

4 特別利用は、館内の所定の場所において係員の指示に従って行わなければならない。

(特別利用の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、特別利用の許可をしてはならない。

- (1) 特別利用によって博物館資料の保存に悪影響を及ぼすおそれがあると認められるとき。
- (2) 好ましくない用途に供するため特別利用が行われると認められるとき。
- (3) 他の観覧者の観覧に支障があると認められるとき。
- (4) 寄託された博物館資料の特別利用で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (5) 著作権がある博物館資料の特別利用で、著作権者の同意を得ていないとき。
- (6) その他館長が特別利用に供することを不適当と認めるとき。

(特別利用の取消し等)

第9条 館長は、特別利用の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、当該許可を取り消し、又は利用を停止させることができる。

- (1) 許可の条件に違反したとき。
- (2) 前条各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) その他館長が必要と認めるとき。

(企画展示室の使用許可等)

第10条 条例第6条の規定に基づき企画展示室を使用することができる日は、博物館が企画展示室を使用する日以外の日とする。

2 条例第6条第1項の使用の許可の申請(以下この条において「申請」という。)は、大津市歴史博物館企画展示室使用許可申請書(様式第3号)を館長に提出して行わなければならない。

3 申請は、次の表の左欄に掲げる企画展示室を使用しようとする日の属する期間の区分に応じ、同表の中欄に定める期間(以下「第1次申請期間」という。)又は同表の右欄に定める期間において行わなければならない。

1月6日から 3月31日まで	前年の4月1日から同月10日(休館日に当たるときは、その翌日)まで	前年の5月1日から使用しようとする日の10日前まで
4月1日から 9月30日まで	前年の10月1日から同月10日(休館日に当たるときは、その翌日)まで	前年の11月1日から使用しようとする日の10日前まで
10月1日から 12月26日まで	4月1日から同月10日(休館日に当たるときは、その翌日)まで	5月1日から使用しようとする日の10日前まで

- 4 館長は、申請があったときは、これを審査の上、企画展示室の使用の可否を決定し、使用を許可するときは、大津市歴史博物館企画展示室使用許可書(様式第4号)を当該申請をした者に交付する。
- 5 前項の許可は、申請の順序に従うものとし、申請が同時のときは、協議又は抽選により順序を定める。この場合において、第1次申請期間中にされた申請は、同時にされたものとみなす。
- 6 次の各号のいずれかに該当するときは、第3項の規定にかかわらず、企画展示室を使用しようとする日の1年前から申請をすることができる。
 - (1) 本市又は大津市教育委員会が主催し、又は共催する事業に使用するとき。
 - (2) 国、他の地方公共団体又は公共的な団体が、公益に資すると認められる事業に使用するとき。
 - (3) その他館長が特に必要があると認めるとき。
- 7 館長は、第4項の許可をする場合において必要があるときは、当該許可に条件を付することができる。
- 8 企画展示室の使用は、係員の指示に従って行わなければならない。

(企画展示室の使用の制限)

第11条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、企画展示室の使用の許可をしてはならない。

- (1) 博物館内の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 営利を目的とすると認められるとき。
- (3) 博物館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (4) 博物館の事業の実施に支障があるとき。
- (5) 歴史、美術等に関する展覧会以外の目的で使用するとき。
- (6) その他博物館の管理運営上支障があると認められるとき。

(企画展示室の使用者の遵守事項)

第12条 企画展示室の使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 使用の権利を他人に譲渡し、又は転貸しないこと。
- (2) 博物館の施設又は設備に変更を加え、又は特別の設備を設けないこと。ただし、あらかじめ館長の承認を受けた場合を除く。
- (3) 許可を受けた目的以外に使用しないこと。
- (4) 許可を受けた施設以外の施設に立ち入らないこと。
- (5) 展示品の販売その他の営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売であらかじめ館長の承認を受けたものを除く。
- (6) 火災、盗難その他の事故の防止に留意すること。
- (7) 許可を受けた施設内の秩序を保持するため必要な措置を講ずること。
- (8) その他館長が指示した事項

(企画展示室の使用許可の取消し等)

第13条 館長は、使用者が、次の各号のいずれかに該当するときは、企画展示室の使用許可を取り消し、又は使用を停止させることができる。

- (1) 許可の条件に違反したとき。
- (2) 第11条各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 前条の規定に違反したとき。
- (4) 不正な手段によって使用許可を受けたとき。
- (5) その他館長が必要と認めるとき。

2 前項の規定により使用の許可を取り消し、又は使用の停止を命じた場合において使用者に損害が生じても、市はその責めを負わない。

(原状回復)

第14条 使用者は、企画展示室の使用を終了したときは、速やかに企画展示室を原状に回復しなければならない。前条の規定により使用許可を取り消された場合においても、同様とする。

(博物館資料の貸出し)

第15条 館長は、市長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館、博物館相当施設その他館長が適当と認めるものに貸し出すことができる。

(博物館資料の寄贈及び寄託)

第16条 博物館は、博物館資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 寄贈及び寄託を受けた資料は、博物館の展示及び一般の利用に供するものとする。ただし、館長が特に不適当と認めるものについては、この限りでない。

(観覧料の減免)

第17条 条例第7条の規定により博物館の観覧料を減免する場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

(1) 市内に所在する学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する小学校若しくは中学校又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の児童又は生徒が、教育課程の一環として常設展示を観覧する場合 全額

(2) 博物館が開催する特別展示を観覧料を納付して観覧した者が、引き続き常設展示を観覧する場合 全額

(3) その他館長が必要と認めた場合 その都度館長が定める額

2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、所定の減免申請書により、あらかじめ館長に申請しなければならない。ただし、前項第2号の規定により減免を受ける場合は、この限りでない。

(観覧料の返還)

第18条 条例第8条ただし書の規定により観覧料を返還する場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

(1) 管理運営上の都合により観覧できない場合 全額

(2) 天災地変その他観覧しようとする者の責めに帰することができない理由により観覧できない場合 全額

(3) その他館長が必要と認めた場合 その都度館長が定める額

(協議会の組織)

第19条 条例第9条に規定する大津市歴史博物館協議会(以下「協議会」という。)に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、協議会の委員(以下「委員」という。)の互選により定める。

3 会長及び副会長の任期は、委員としての在任期間とする。ただし、再任を妨げない。

4 会長は、会務を総理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第20条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じて会長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 協議会は、必要があると認めるときは、関係職員に対し資料の提出を求め、又は会議に出席を求めてその説明を聴くことができる。

(その他)

第21条 この規則に定めるもののほか、歴史博物館の管理運営について必要な事項は、その都度市長が定める。